

京都市 思春期に関する意識調査

【結果報告書】 (概要版)



平成26年10月
京都市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	回答者の基本属性.....	2
2	ふだんの生活について.....	3
3	体格について.....	9
4	家族との関係について.....	12
5	悩みやこころの状態について.....	14
6	小さな子どもとふれ合う機会について.....	18
7	喫煙について.....	21
8	飲酒について.....	25
9	規制薬物について.....	28
10	性に関わることについて.....	30
11	将来について.....	33

子どもを共に育む 京都市民憲章



わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、
慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを
大切に、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、
京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切に、
子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが
求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、
命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で
臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、
学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、
共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。



わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日（育児ニコニコ笑顔の日）制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、子育て支援施策の総合的な計画として、平成 22 年 3 月に「京都市未来子どもプラン」（以下「現行プラン」といいます。）を策定し、子どもたちの笑顔のためにみんなで子育てを支え合えるまちづくりを進めてきました。

現行プランの計画期間は、平成 26 年度までとなっていることから、京都市では、現行プランを見直し、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 箇年を計画期間とする新たなプランを策定することとしています。

この新たなプランは、平成 27 年から実施が予定されている「子ども・子育て支援新制度」において、市町村が策定することとされている「市町村子ども・子育て支援事業計画」のほか、「ひとり親家庭自立促進計画」、「母子保健計画」等を一体的に盛り込み、策定するものです。

本調査は、この新たなプランの策定に際し、京都市における子育て支援施策の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的に実施したものです。

2 調査概要

- 調査地域 : 京都市全域
- 調査対象者 : 平成 25 年 8 月 1 日現在、13 歳以上 19 歳以下の市民のうち住民基本台帳及び外国人登録者から無作為抽出した 5,000 人
- 調査期間 : 平成 25 年 8 月 15 日から 9 月 4 日まで
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収（無記名回答）

	調査票配布数	有効サンプル数	回収率
思春期に関する意識調査	5,000	1,150	23.0%
(参考) 平成 20 年調査	5,000	1,061	21.2%

3 調査結果の表示方法

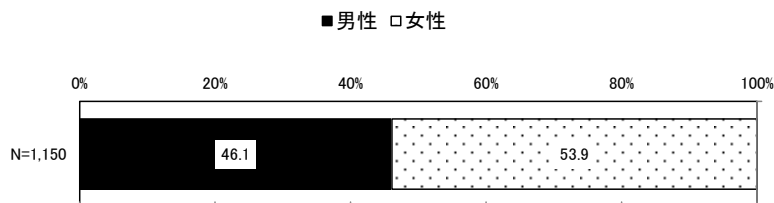
- 回答はすべて平成 25 年 8 月 1 日時点の状況に基づいています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の基本属性

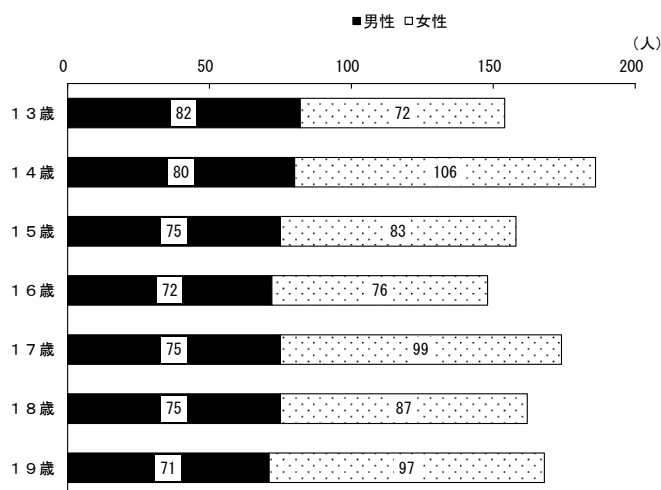
(1) 性別 (問1)

回答者の性別は男性が46.1%、女性が53.9%となっています。



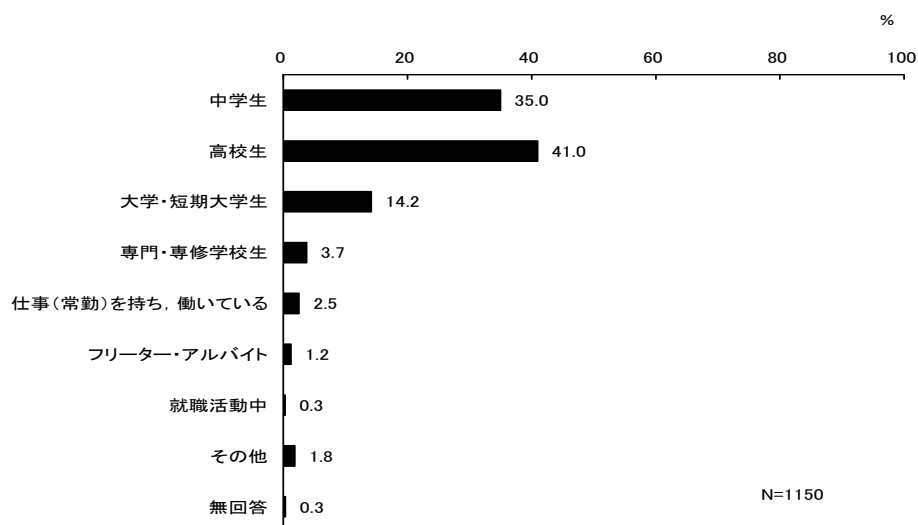
(2) 年齢 (問1)

13歳から19歳まで、各年齢148人から186人となっています。



(3) 学校・職業 (問2)

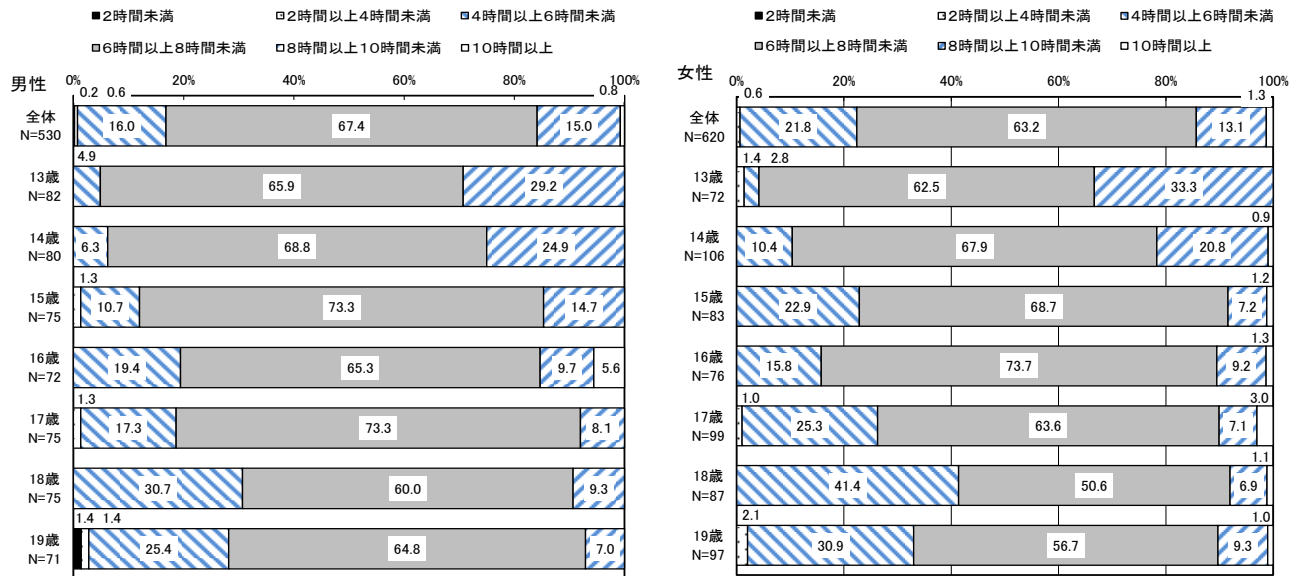
全体では、学生が90%以上を占め、高校生が最も高くなっています。



2 ふだんの生活について

(1) 1日の平均睡眠時間（問4）

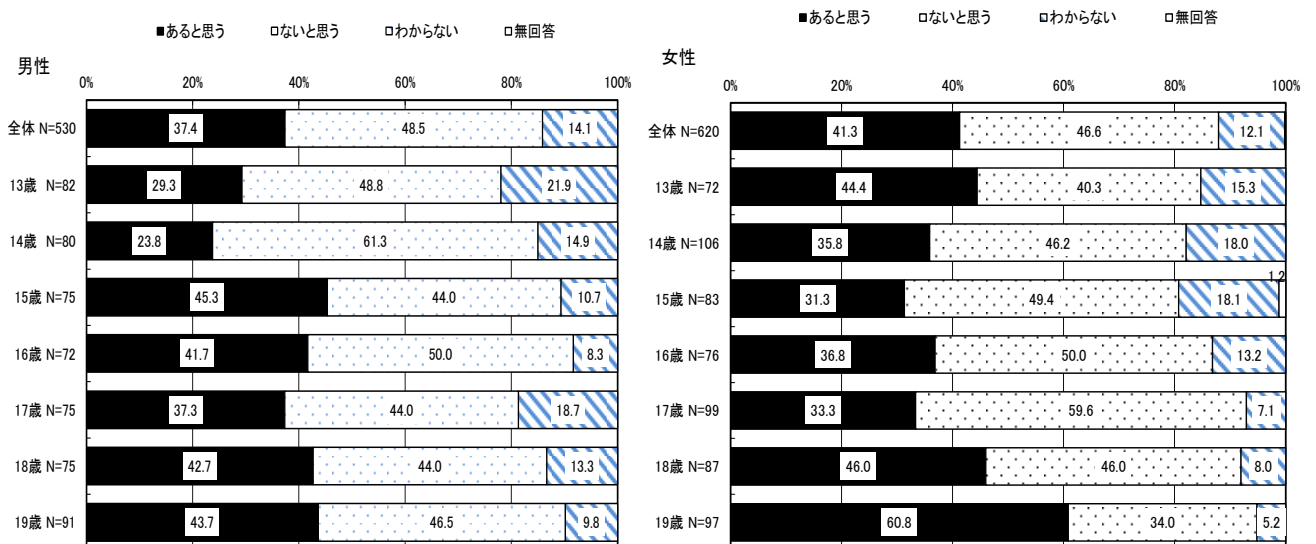
男女共に、「6時間以上8時間未満」の割合が最も高くなっています。



(2) 自分の生活リズム(起床時間, 就寝時間など)に問題があると思うか(問5)

全体では、男性の37.4%、女性の41.3%が、生活リズムに問題が「あると思う」と回答しています。

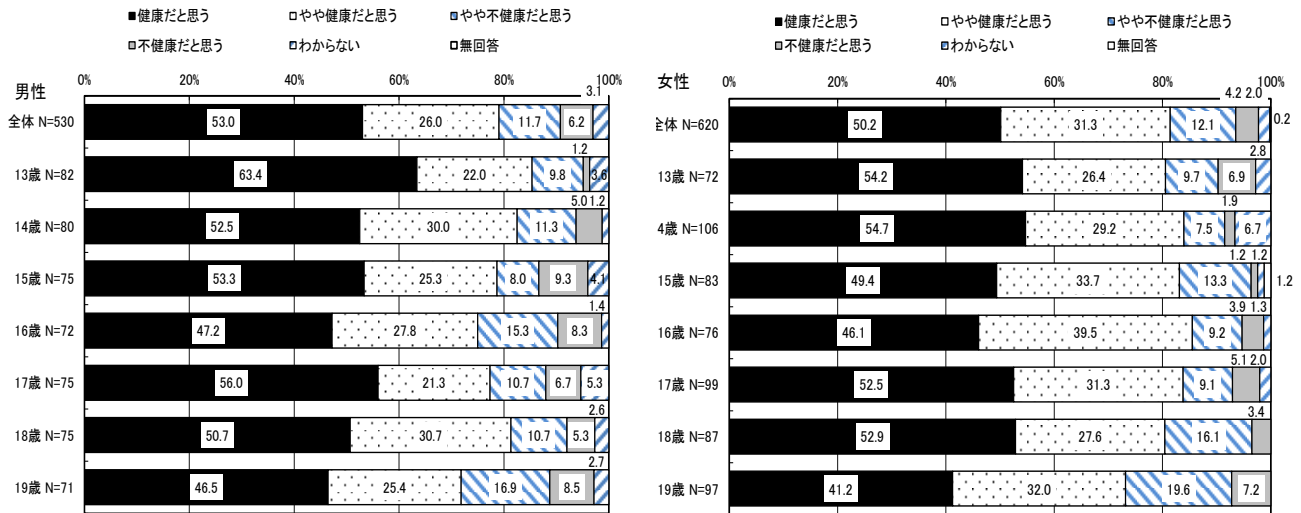
年齢別では、19歳の女性で、問題が「あると思う」の割合が60.8%であり、最も高くなっています。



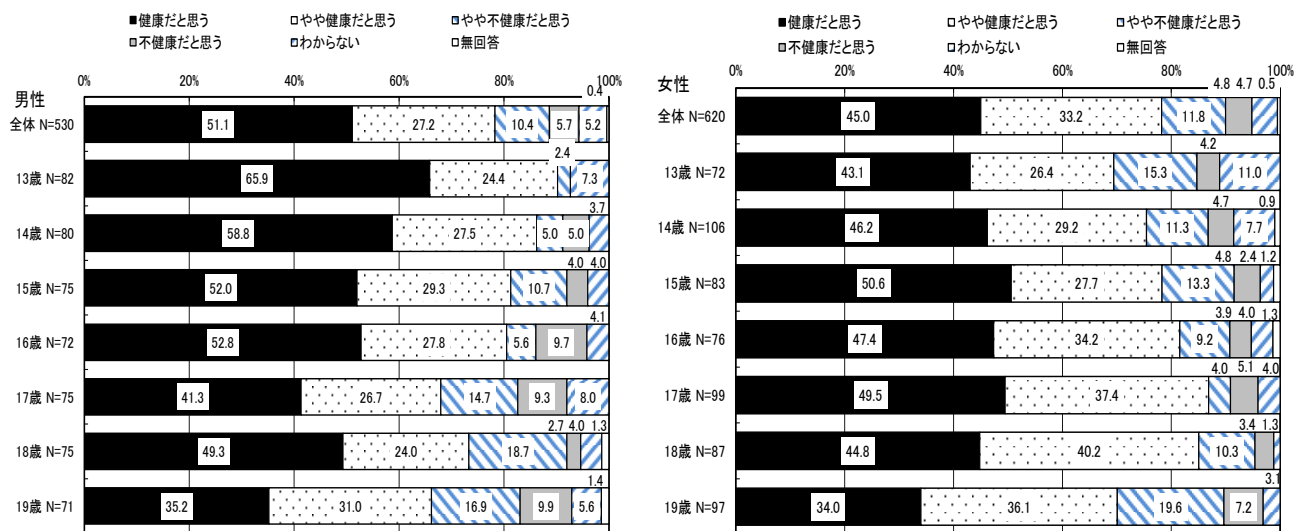
(3) 自分の健康観（問6）

男女共に、身体面・精神面において「健康だと思う」、「やや健康だと思う」の割合は、全体の約80%となっています。

【身体面】



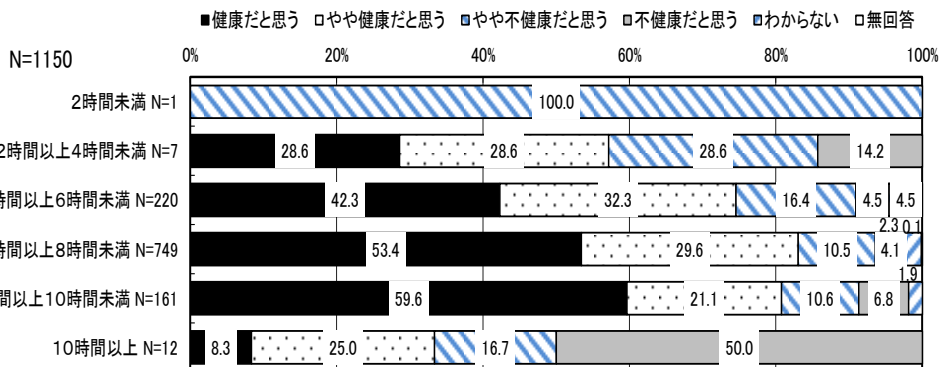
【精神面】



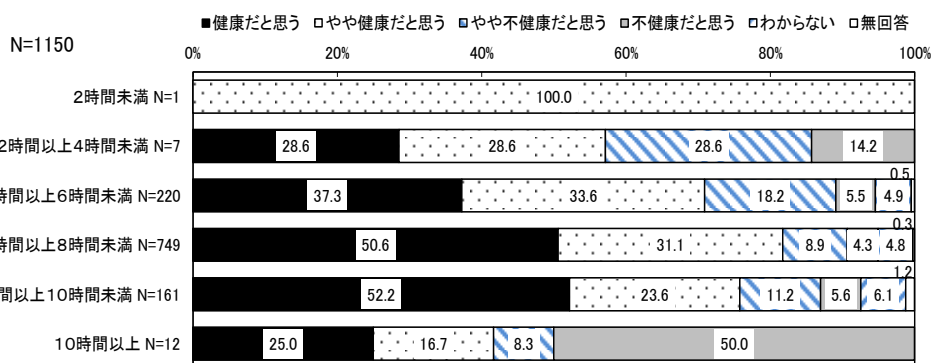
< 1日の平均睡眠時間（問4）と自分の健康観の関係（問6） >

睡眠時間に比例して、「健康だと思う」の割合が増加する傾向にあり、6時間以上10時間未満の睡眠時間では、身体面、精神面共に「健康だと思う」の割合が50%以上になっています。

【身体面】

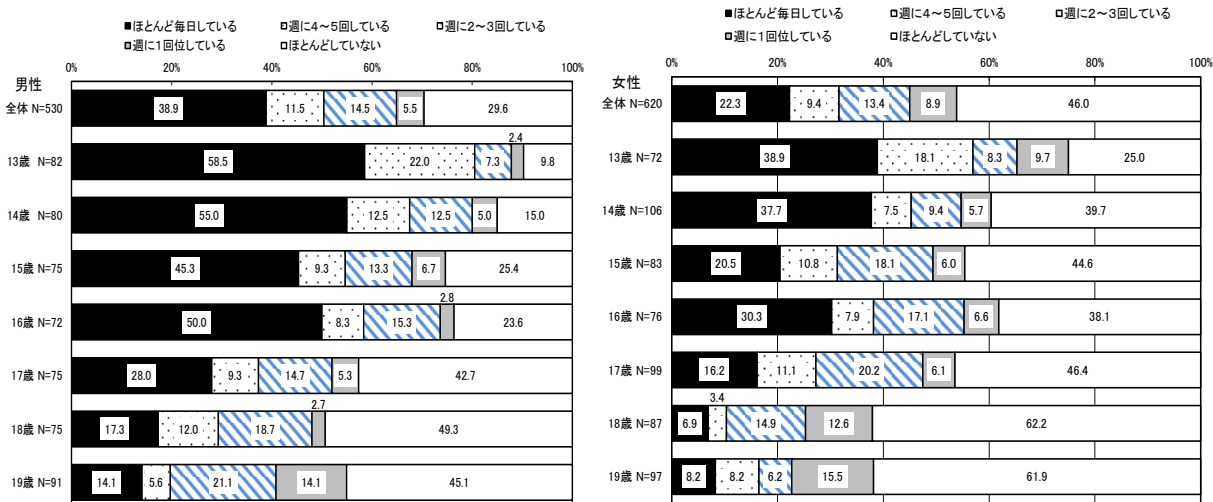


【精神面】



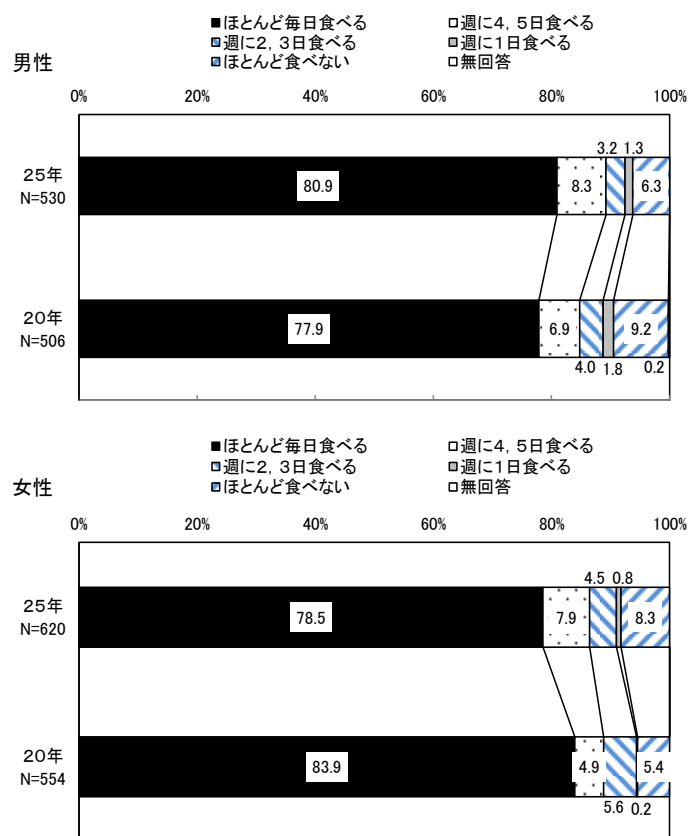
(4) ふだんの運動（問7）

全体では、男性の64.9%、女性の45.1%が週2回以上運動していますが、男女共に年齢があがるにつれて、運動を「ほとんどしていない」の割合が増加する傾向にあり、特に女性では18歳、19歳でその割合が60%以上となっています。



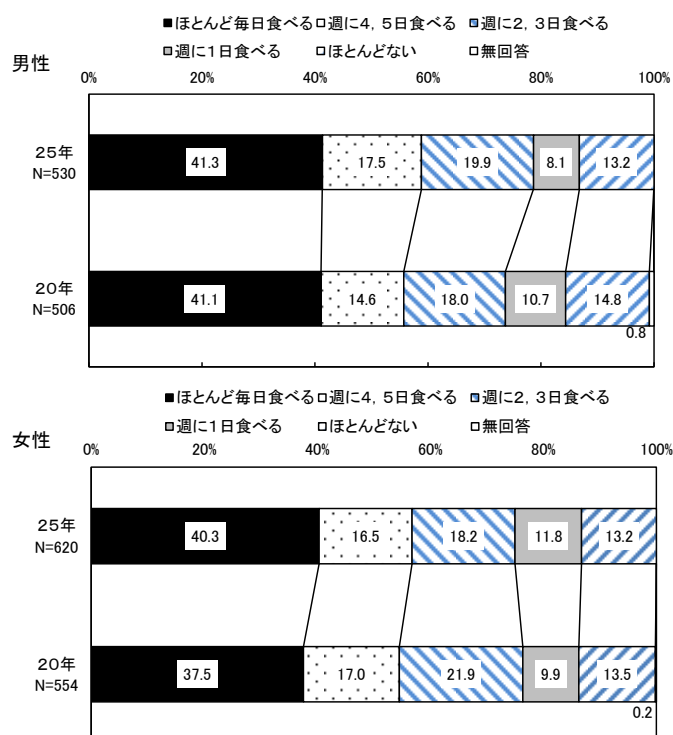
(5) 朝食の摂取状況 (問8)

全体では、朝食を「ほとんど毎日食べる」の割合は、男性の80.9%、女性の78.5%であり、平成20年調査の男性77.9%、女性83.9%と比較して、男性が増加し、女性が減少しています。



(6) 家族そろっての食事 (問9)

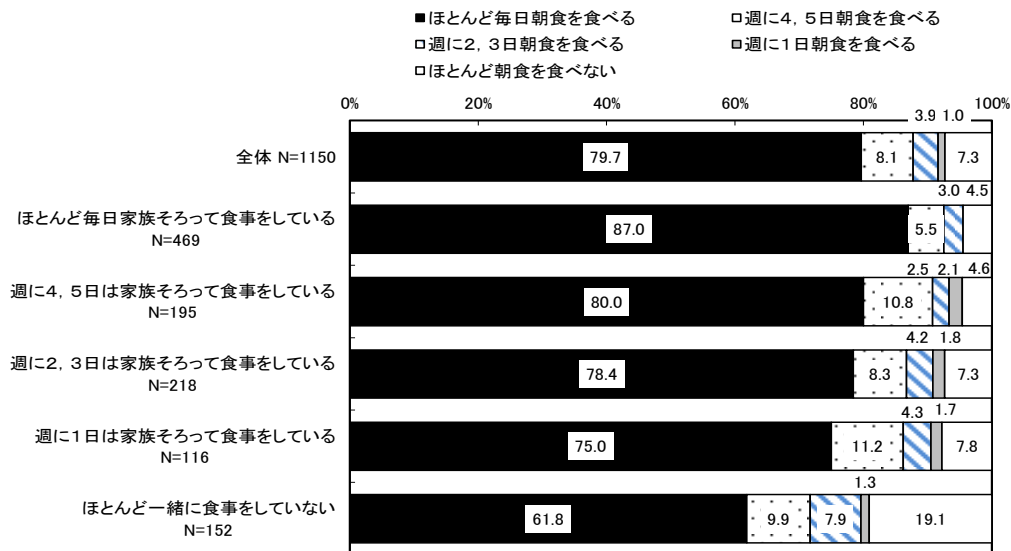
「ほとんど毎日家族そろって食事をしている」の割合は、男性の41.3%、女性の40.3%であり、平成20年調査の男性41.1%、女性37.5%と比較して増加しています。



＜朝食の摂取（問8）と家族そろっての食事（問9）の関係＞

「ほとんど毎日家族そろって食事をしている」者は、その他の者と比較して、「ほとんど毎日朝食を食べる」の割合が高くなっています。

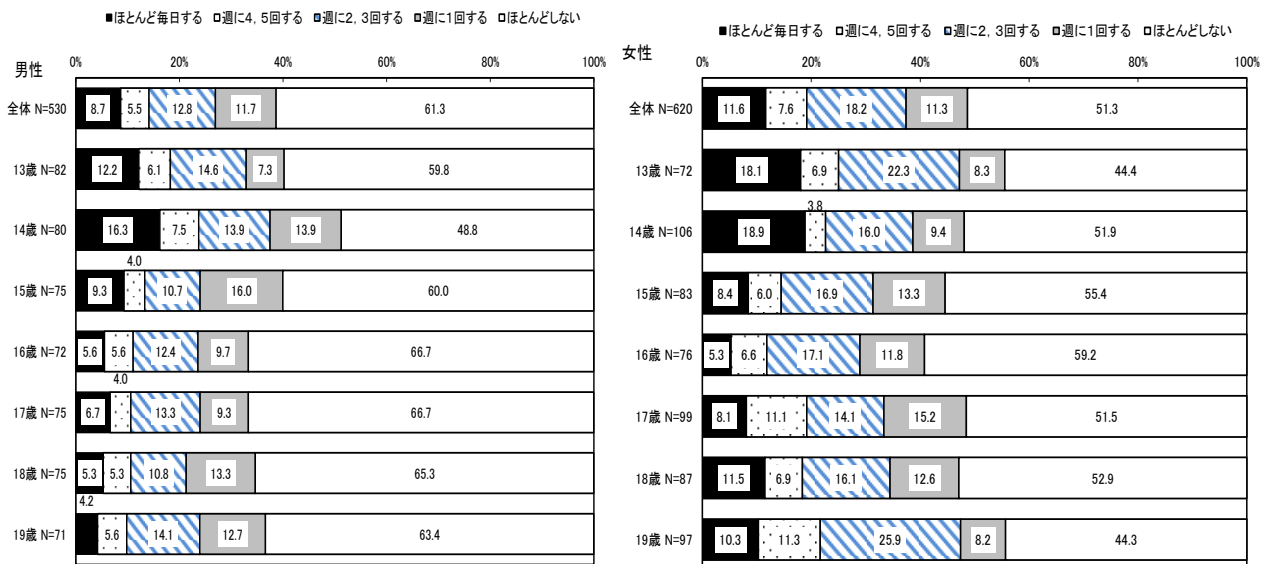
「ほとんど一緒に食事をしていない」者は、その他の者と比較して、「ほとんど朝食を食べない」の割合が高くなっています。



(7) 自分や家族のための食事作り・手伝い（問10）

全体では、自分や家族のための食事作りや手伝いを「ほとんどしない」の割合は、男性の61.3%、女性の51.3%であり、最も高くなっています。

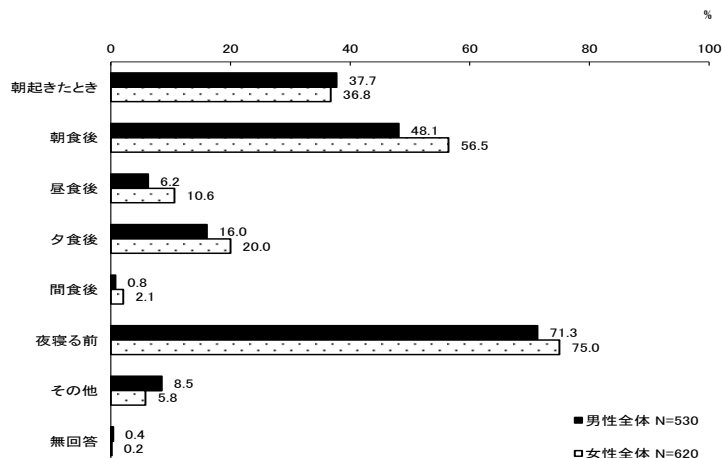
「ほとんど毎日する」、「週に4, 5回する」の割合は、男女共に13歳, 14歳で高くなっていますが、男性では、15歳からその割合が減少する傾向がみられています。



(8) 歯みがきの状況 (問12)

男女共に、「夜寝る前」の割合が最も高く、次いで「朝食後」、「朝起きたとき」の順となっています。

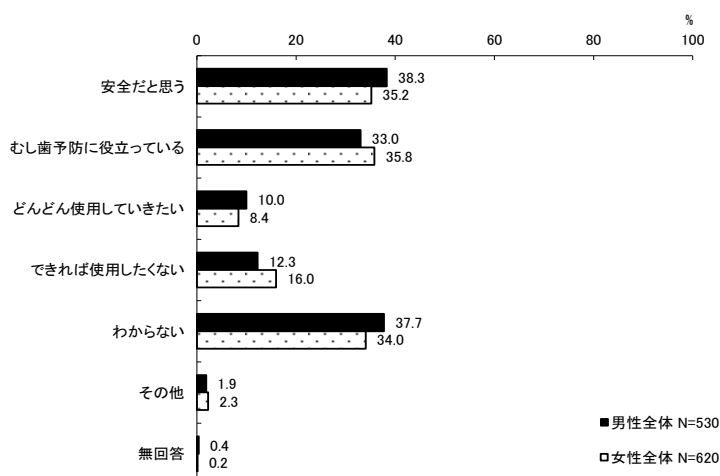
男女別では、「朝起きたとき」を除いて、女性の方が、歯みがきをする割合が高くなっています。



(9) むし歯予防のためにフッ素を使用すること (問15)

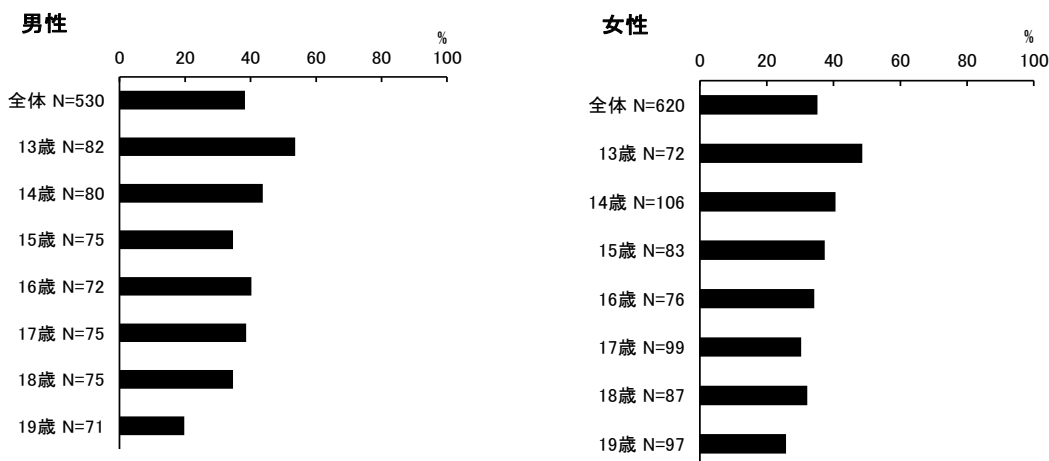
「安全だと思う」の割合は、男性の38.3%、女性の35.2%であり、「むし歯予防に役立っている」の割合は、男性の33.0%、女性の35.8%と高くなっています。

一方で、「わからない」の割合は、男性の37.7%、女性の34.0%であり、「できれば使用したくない」の割合は、男性の12.3%、女性の16.0%となっています。



【フッ素の使用が安全だと思う割合】

男女共に、年齢が低いほどフッ素の使用が「安全だと思う」の割合が高くなる傾向があります。



3 体格について

(1) 身長・体重・BMI (問16)

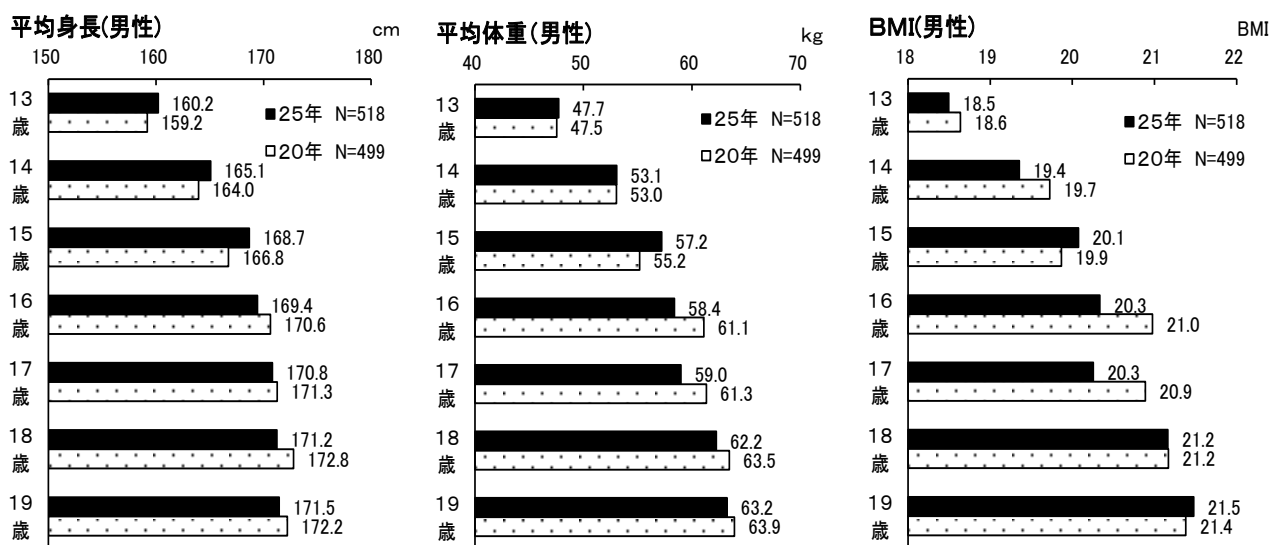
体格指数 (BMI = 18.5 未満…やせ 18.5 以上 25.0 未満…普通 25.0 以上…肥満)

* BMI 算出方法 = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

男女共に平均BMIは、平成20年調査と比較して、ほぼ変化はみられていませんが、女性のBMIは、13歳から16歳でやや低下傾向にあります。

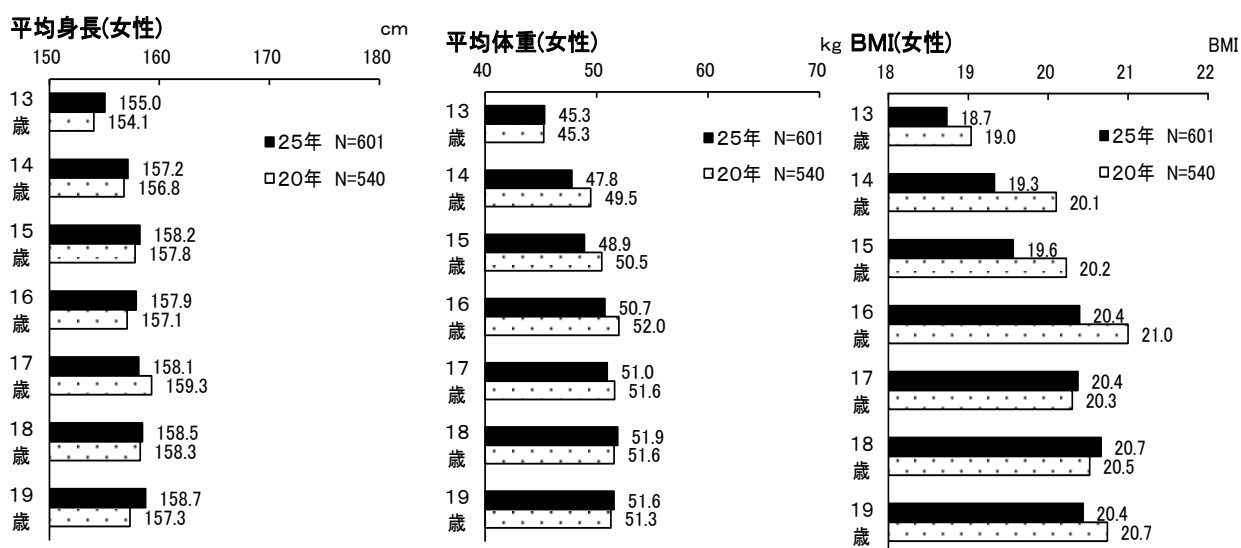
【男性】

	平均身長	平均体重	平均BMI
今回調査	168.0	57.0	20.1
平成20年調査	167.7	57.5	20.4



【女性】

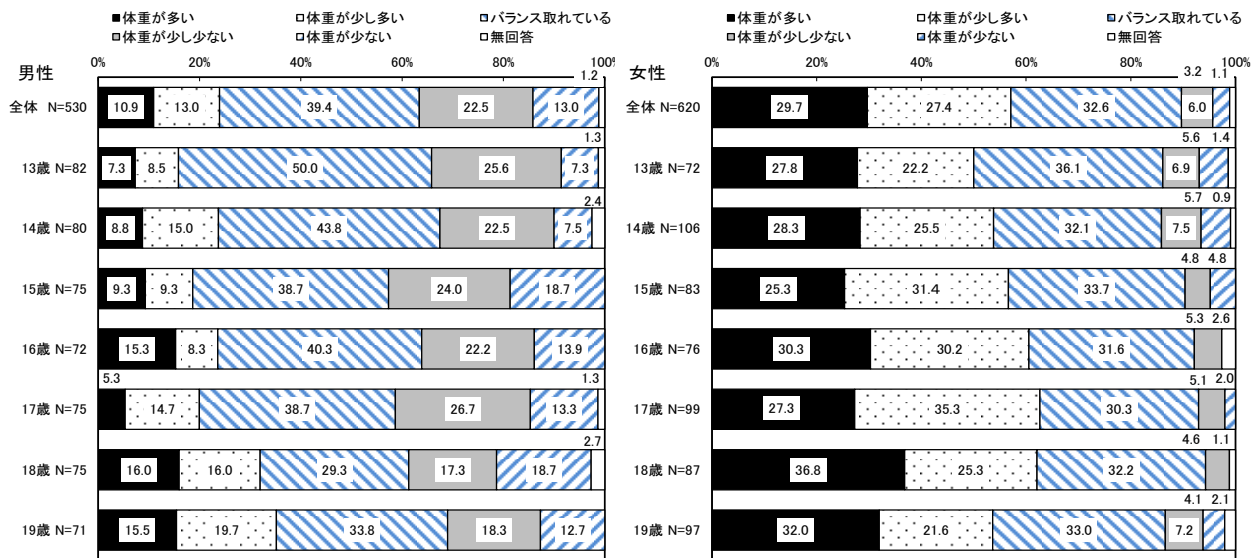
	平均身長	平均体重	平均BMI
今回調査	157.8	49.7	20.0
平成20年調査	157.2	50.2	20.3



(2) 自分の身長と体重のバランス (問17)

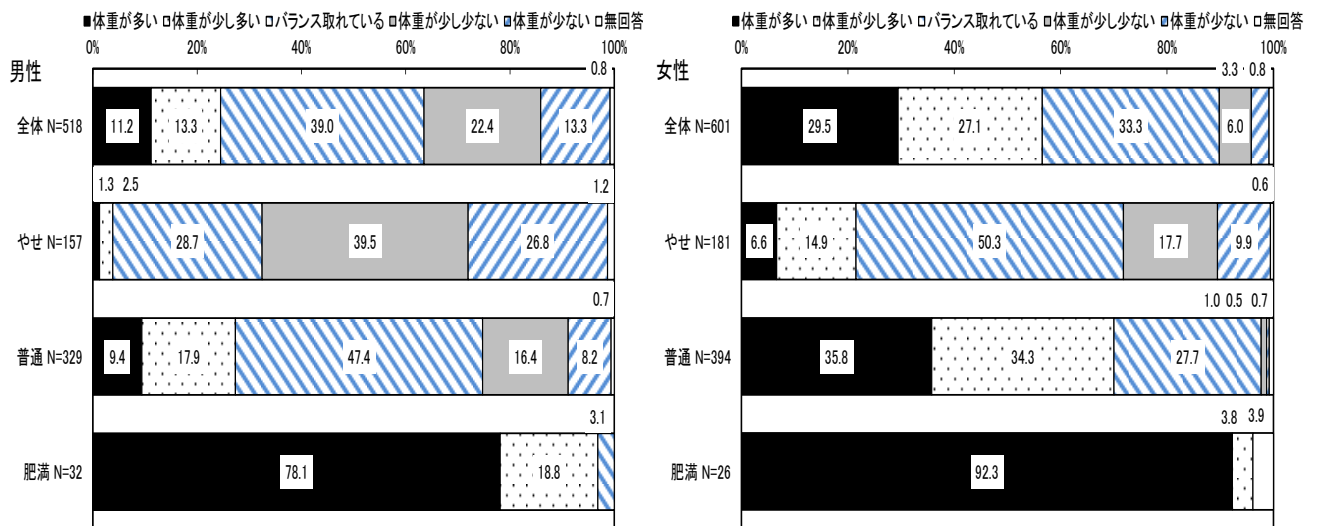
全体では、「バランスが取れている」の割合は、男性の39.4%、女性の32.6%となっており、平成20年調査の男性39.7%、女性30.1%と比較して、女性でやや増加しています。

「体重が多い」、「体重が少し多い」の割合は、男性の23.9%、女性の57.1%となっており、女性が高くなっていますが、平成20年調査と比較すると、男女ともその割合は減少しています。



<現在の体格 (問16) と自分の身長と体重のバランス (問17) の関係>

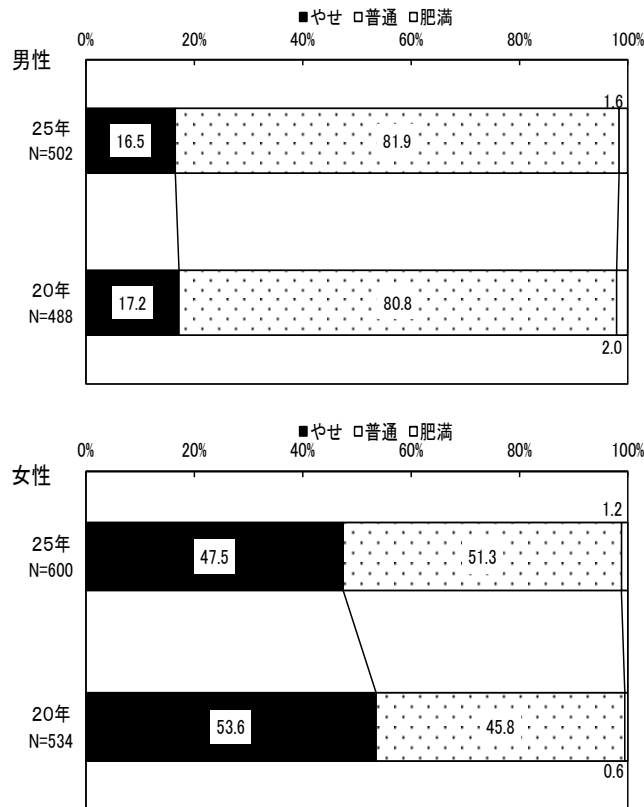
現在の体格が「やせ」であっても、「体重が多い」、「体重が少し多い」と思う割合は、男性の3.8%、女性の21.5%となっています。



(3) 理想とする体重 (問18)

男性では、「普通」が81.9%、「やせ」が16.5%、「肥満」が1.6%となっており、平成20年調査とほぼ同様となっています。

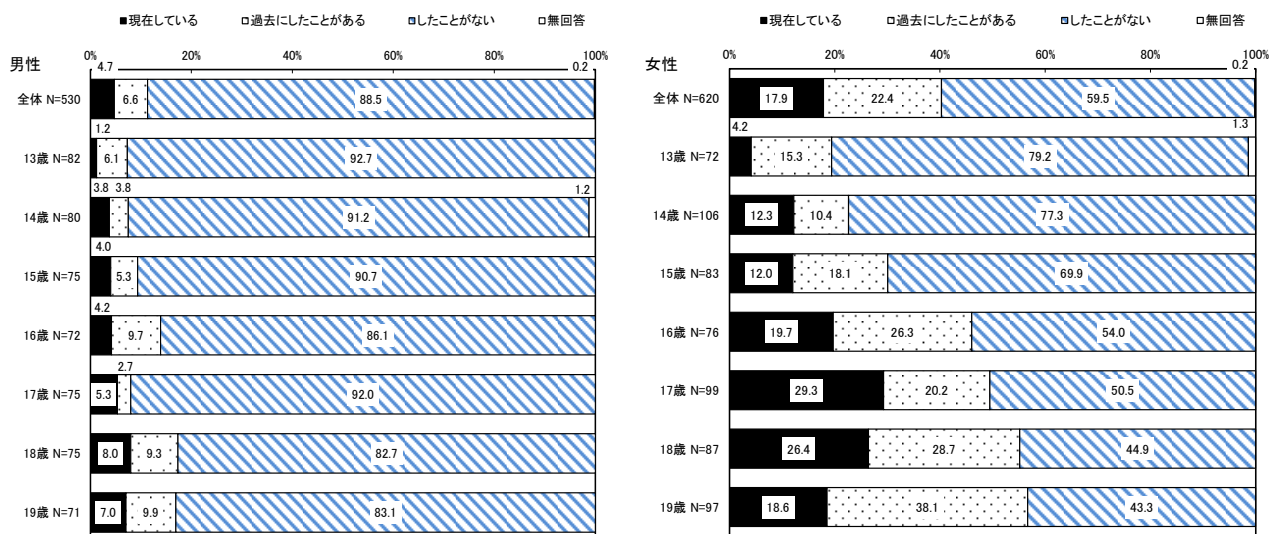
女性では、「普通」が51.3%、「やせ」が47.5%、「肥満」が1.2%となっており、平成20年調査と比較して、「やせ」は53.7%から減少し、「普通」は45.8%から増加しています。



(4) ダイエット経験 (問19)

全体では、ダイエット経験(「現在している」、「過去にしたことがある」の回答者)の割合は、男性の11.3%、女性の40.3%となっています。

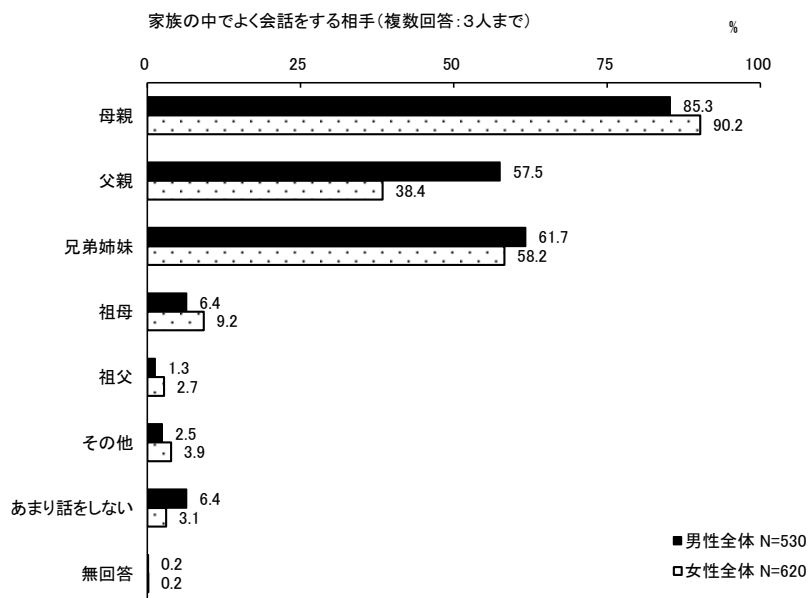
ダイエット経験は女性に多く、男女共に、年齢があがるにつれて増加する傾向があります。



4 家族との関係について

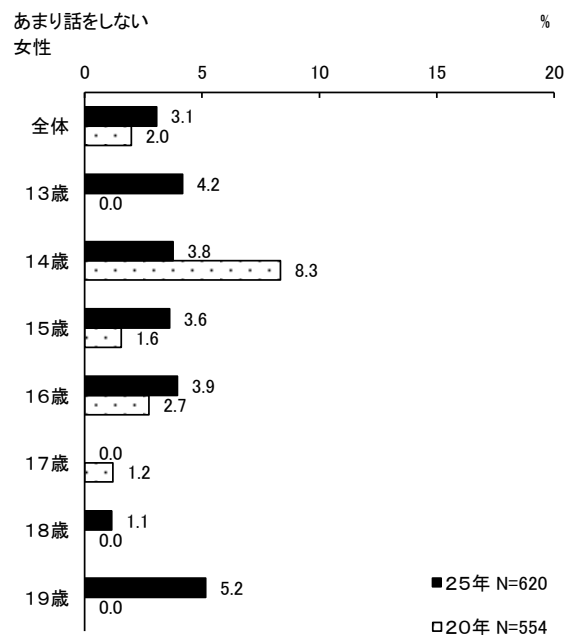
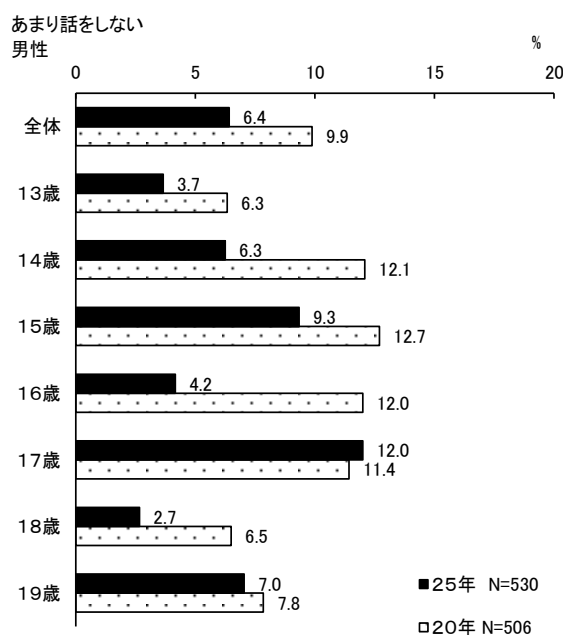
(1) 家族との会話（複数回答：3人まで）（問20）

男女共に、「母親」、「兄弟姉妹」、「父親」の順に高くなっています。特に「母親」は、女性の90.2%、男性の85.3%となっています。



「あまり話をしない」の割合は、男性では6.4%であり、平成20年調査の9.9%と比較して減少しています。一方、女性では、3.1%であり、平成20年調査の2.0%と比較して増加しています。

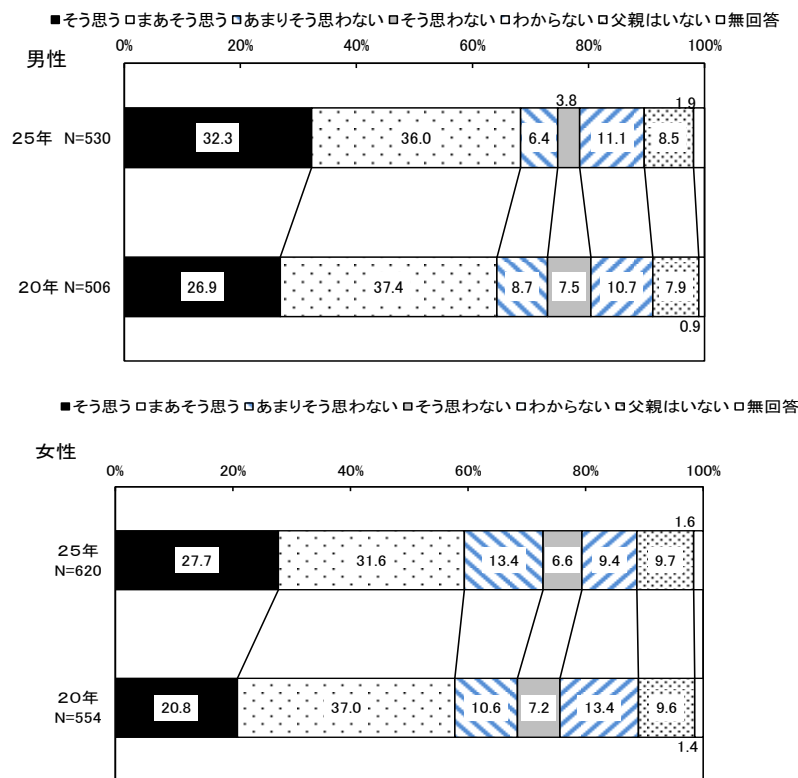
年齢別では、男性は17歳、女性は19歳で「あまり話をしない」の割合が最も高くなっています。



(2) 親の理解 (問22)

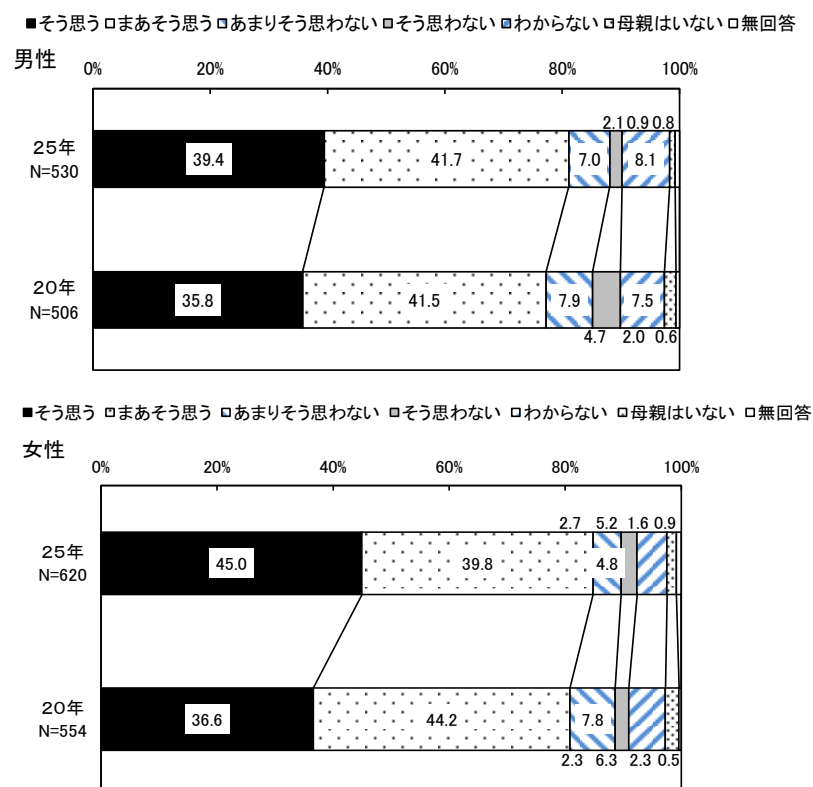
【父親の理解】

父親が自分を理解してくれていることについて、「そう思う」、「まあそう思う」の割合は、男性の68.3%、女性の59.3%であり、平成20年調査の男性64.3%、女性57.8%と比較して、増加しています。



【母親の理解】

母親が自分を理解してくれていることについて、「そう思う」、「まあそう思う」の割合は、男性の81.1%、女性の84.8%であり、平成20年調査の男性77.3%、女性80.8%と比較して、増加しています。

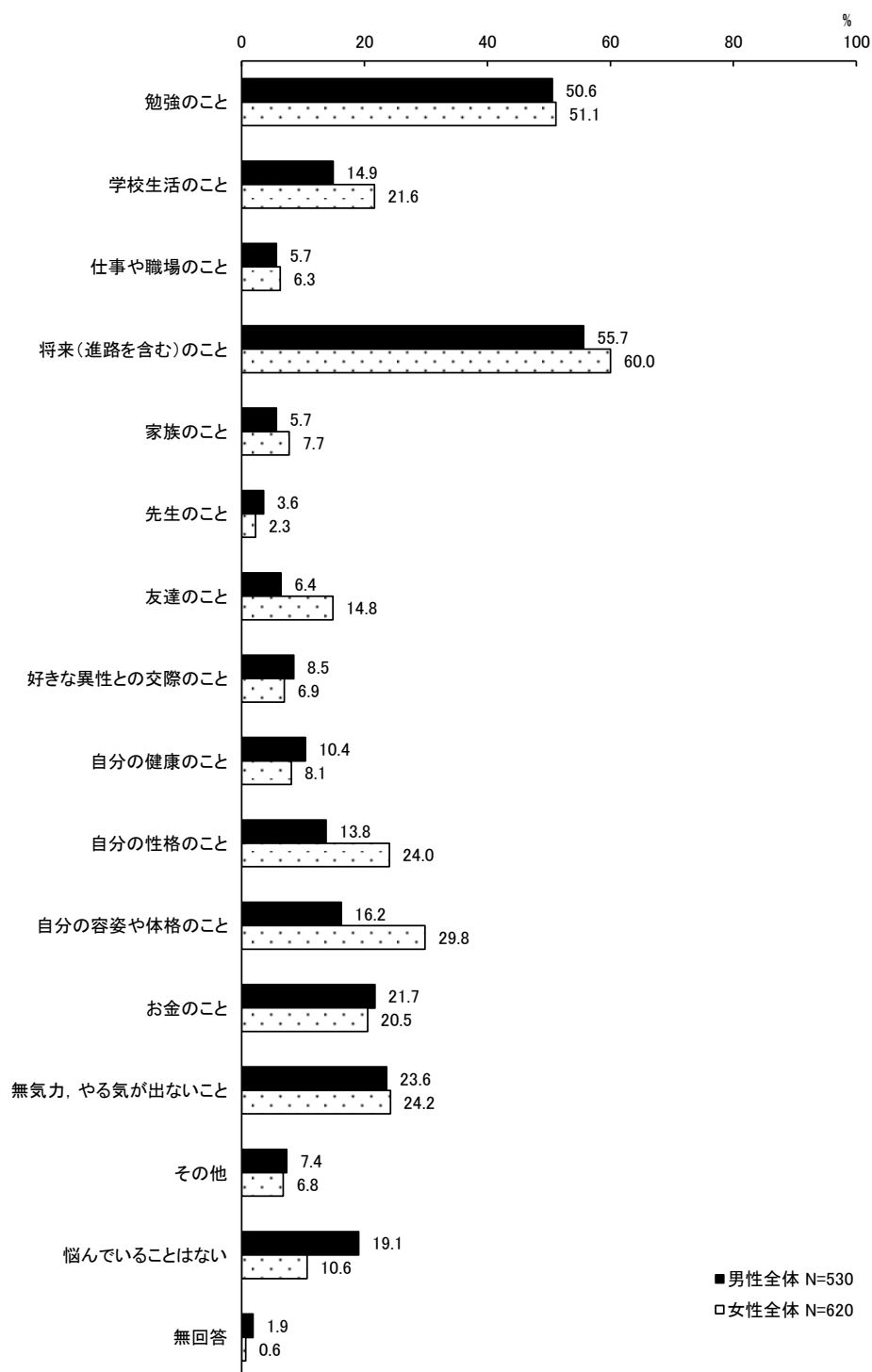


5 悩みやこころの状態について

(1) 現在悩んでいること（複数回答：5つまで）（問23）

男女共に、「勉強のこと」、「将来（進路を含む）のこと」の割合が高く、平成20年調査とほぼ同様となっています。

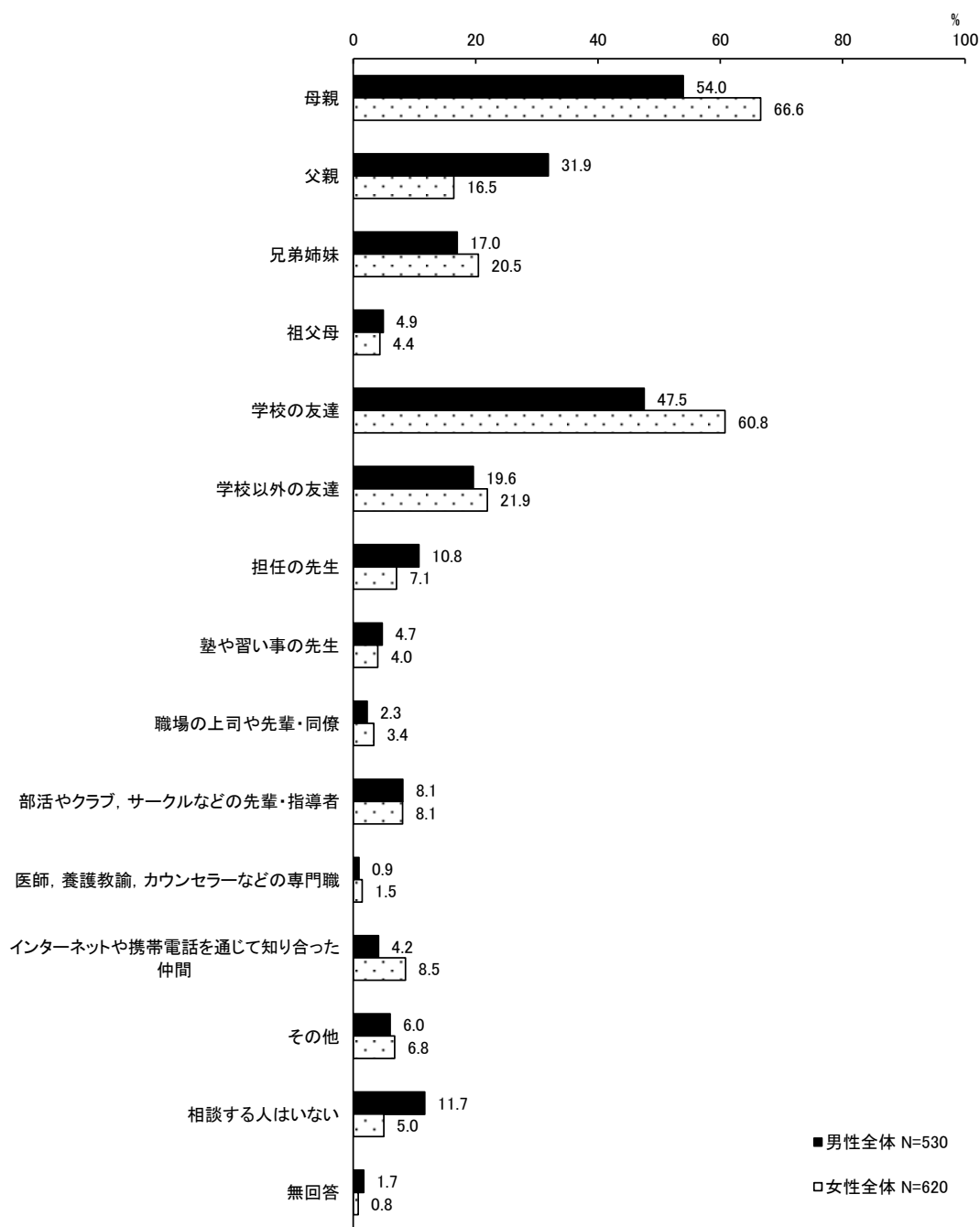
男女別では、男性と比較して女性の方が、「学校生活のこと」、「友達のこと」、「自分の性格のこと」、「自分の容姿や体格のこと」の割合が高くなっています。



(2) 相談先（複数回答：5つまで）（問24）

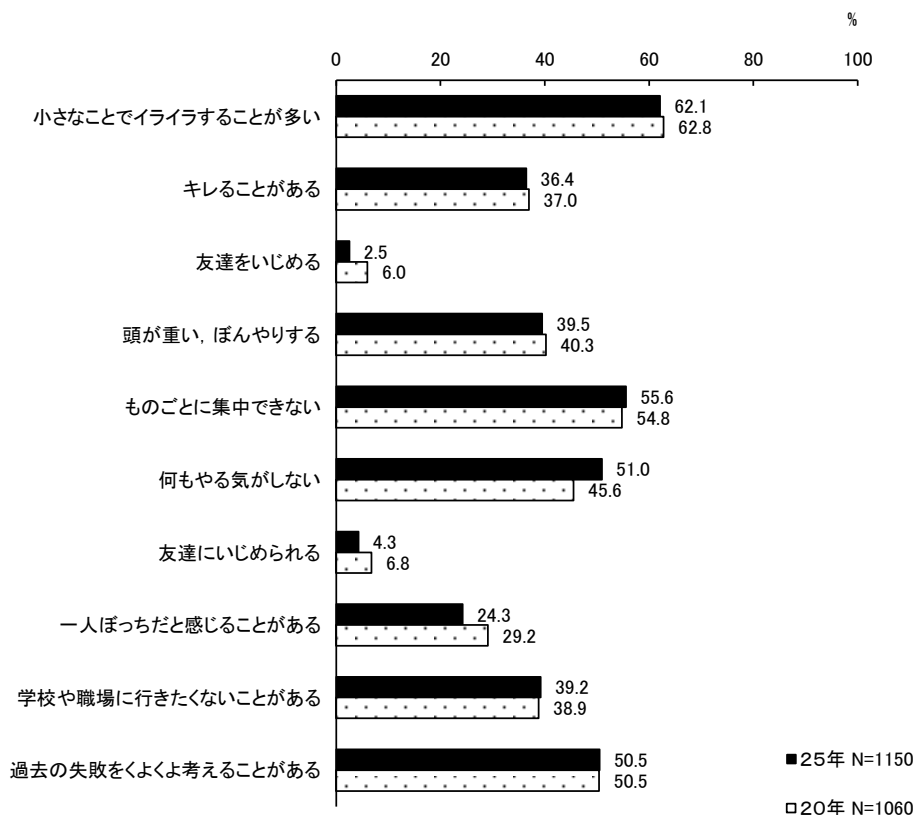
男性では、「母親」、「学校の友達」、「父親」の順に高くなっています。

女性では、「母親」、「学校の友達」、「学校以外の友達」の順に高くなっています。

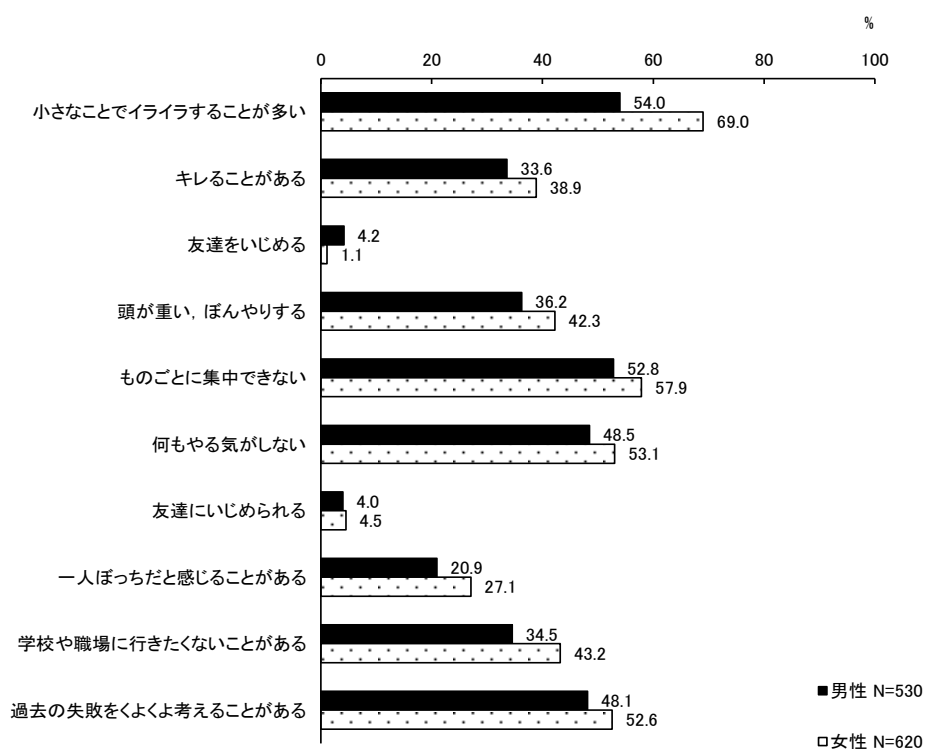


(3) ころの状態（複数回答）（問25）

平成20年調査と比較して、「よくある」、「時々ある」の割合は、「友達をいじめる」が6.0%から2.5%、「友達にいじめられる」が6.8%から4.3%、「一人ぼっちだと感じることがある」が29.2%から24.3%に減少し、「何もやる気がしない」が45.6%から51.0%に増加しています。

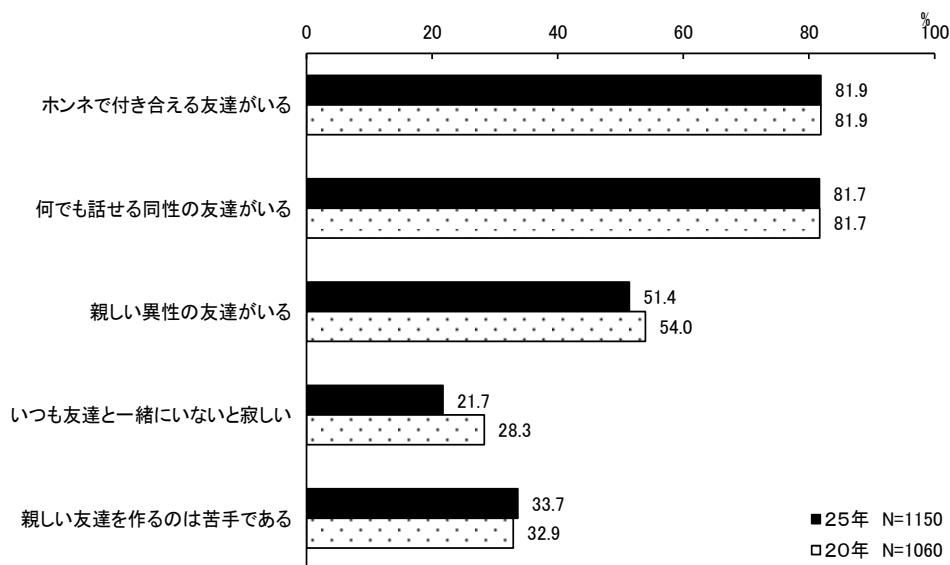


男女別では、「よくある」、「時々ある」の割合は、「友達をいじめる」を除く全ての項目で、女性の方が、割合が高くなっています。

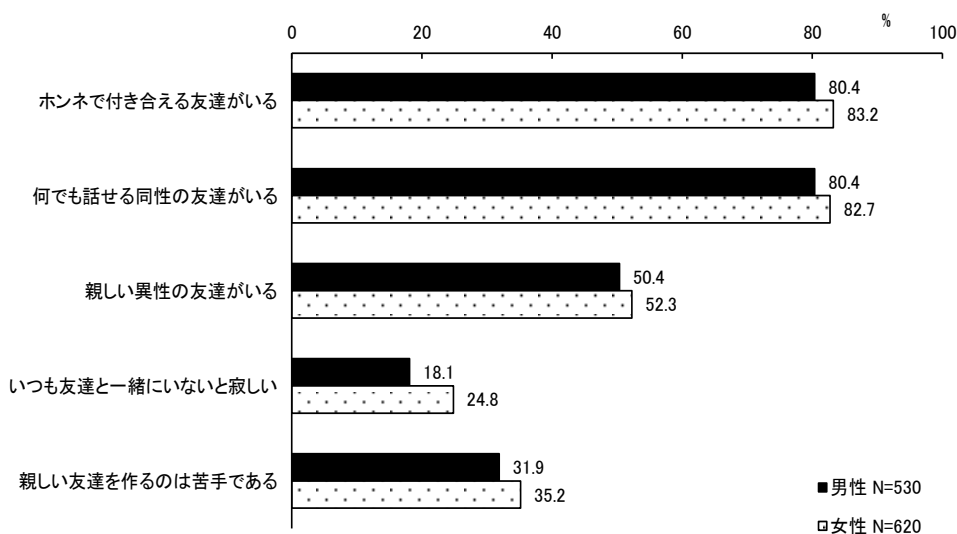


(4) 友達との付き合い（複数回答）（問26）

「親しい異性の友達がいる」に「はい」と回答した割合は、平成20年調査と比較して、54.0%から51.4%に減少し、また、「いつも友達と一緒にいないと寂しい」に「はい」と回答した割合も28.3%から21.7%に減少しています。



男女別では、全ての項目で、女性の方が、割合が高くなっています。

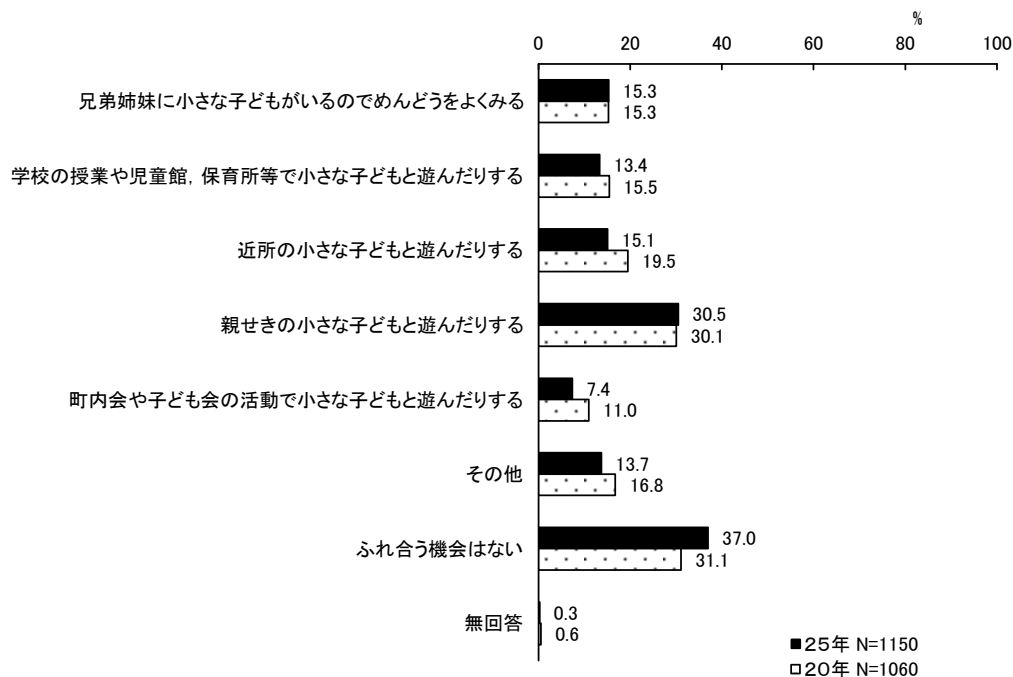


6 小さな子どもとふれ合う機会について

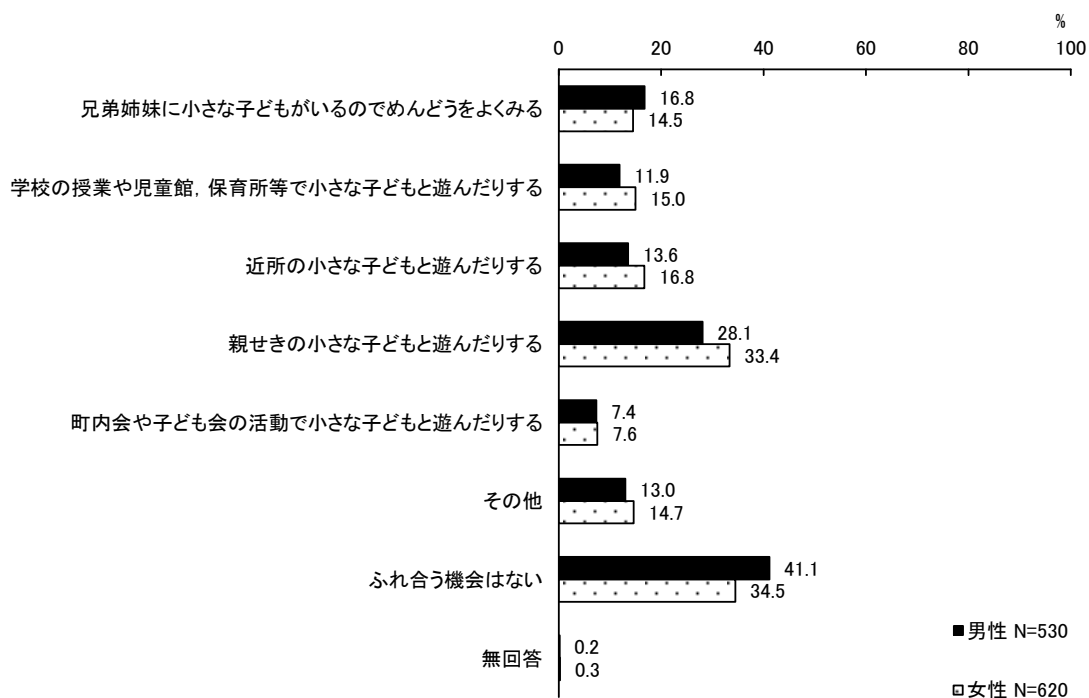
(1) 小さな子どもとふれ合う機会（複数回答：3つまで）（問27）

男女共に、小さな子どもとふれ合う機会でもっと割合が高いものは、「親せきの小さな子どもと遊んだりする」となっています。

「ふれ合う機会はない」の割合は、平成20年調査と比較すると、31.1%から37.0%と増加しています。

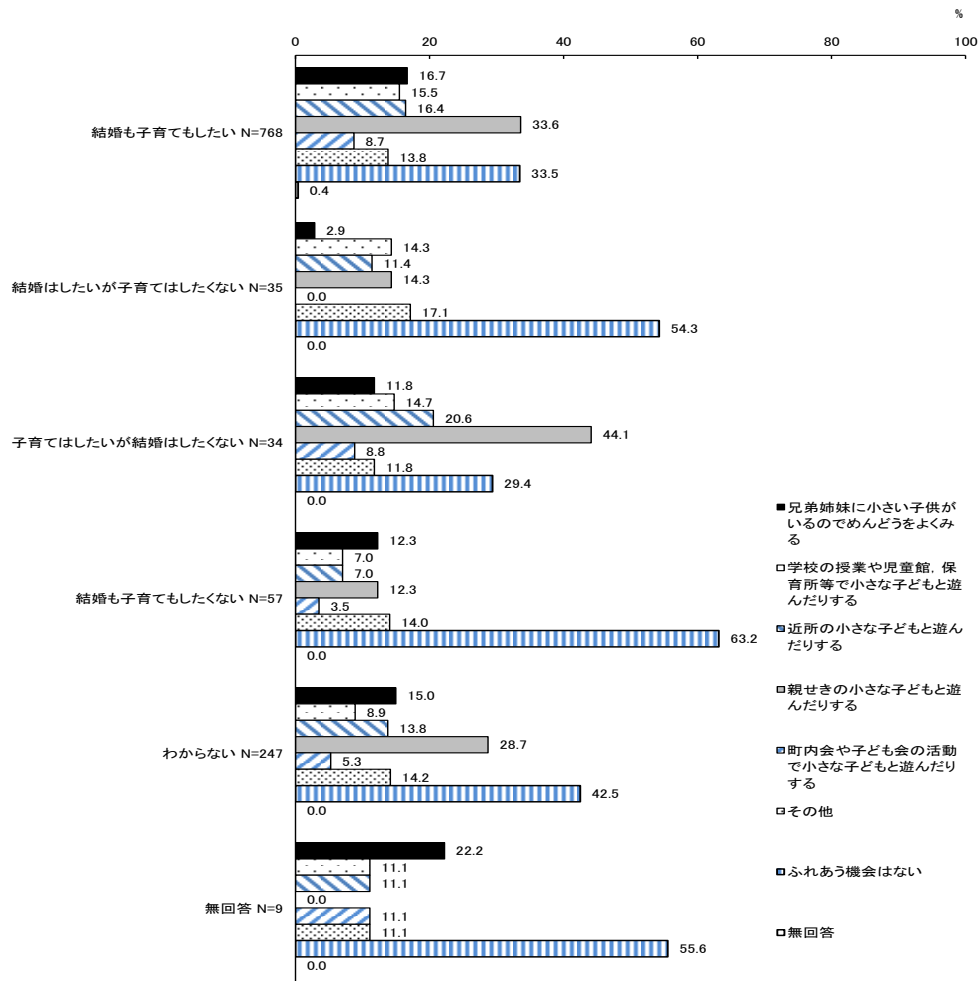


男女別では、「ふれ合う機会はない」の割合が、男性の41.1%、女性の34.5%で、女性の方が、小さな子どもとふれ合う機会が多い傾向にあります。



<小さな子どもとふれ合う機会（問27）と将来の結婚・子育て（問45）の関係>

「結婚はしたいが子育てはしたくない」、「結婚も子育てもしたくない」と回答した者は、他の者と比較して、小さな子どもと「ふれ合う機会はない」の割合が高くなっています。

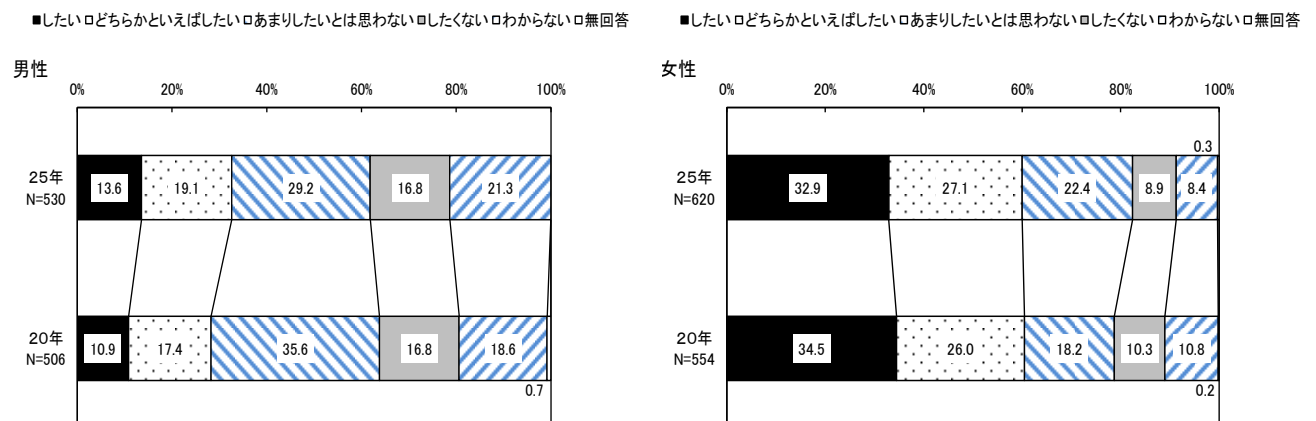


(2) 育児体験の希望（問28）

男性では、育児体験を「したい」、「どちらかといえばしたい」の割合は32.7%であり、平成20年調査の28.3%と比較して、増加しています。

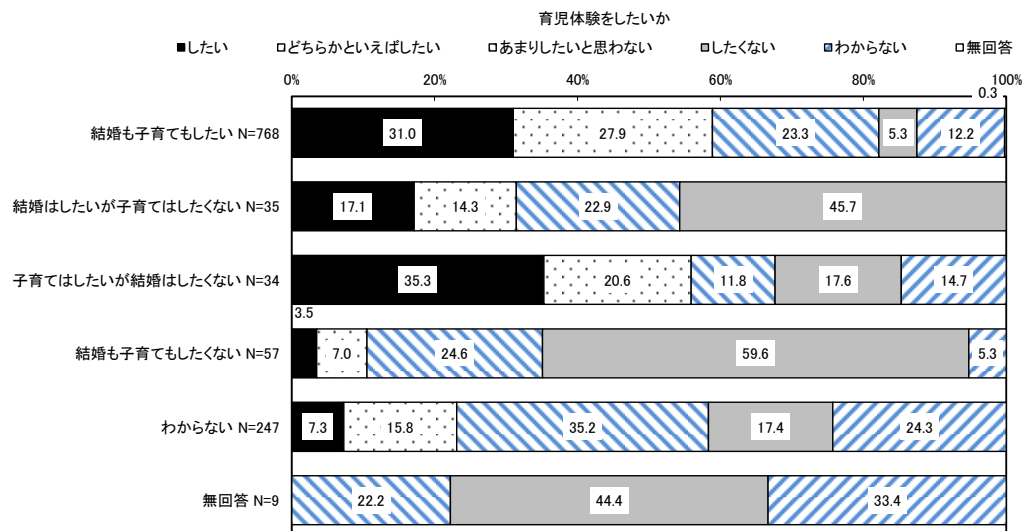
女性では、育児体験を「したい」、「どちらかといえばしたい」の割合は60.0%であり、平成20年調査の60.5%と比較して、微減しています。

男女別では、女性の方が、「したい」、「どちらかといえばしたい」の割合が高くなっています。



<育児体験の希望（問28）と将来の結婚・子育て（問45）の関係>

「結婚はしたいが子育てはしたくない」、「結婚も子育てもしたくない」と回答した者は、他の者と比較すると、育児体験を「したくない」の割合が高くなっています。

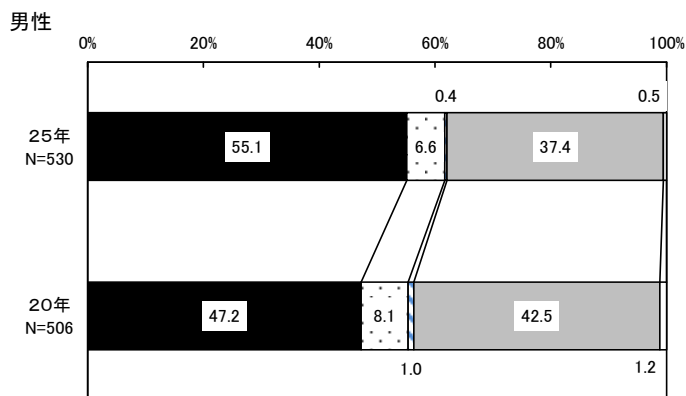


7 喫煙について

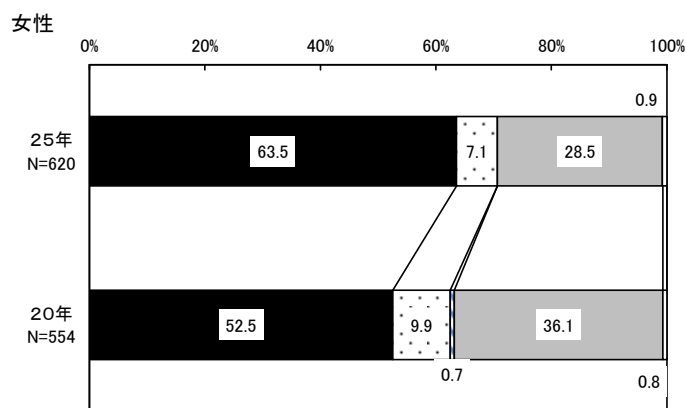
(1) 未成年がたばこを吸うことについて（問29）

「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」の割合は、男性の55.1%、女性の63.5%であり、平成20年調査の男性47.2%、女性52.5%と比較して、増加しています。

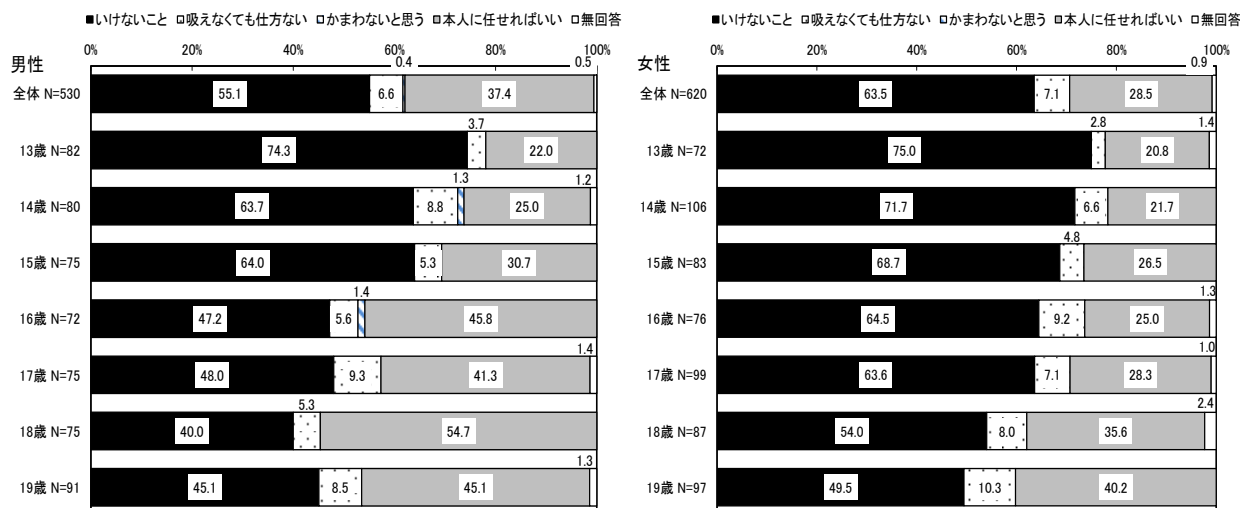
■いけないこと □吸えなくても仕方ない □かまわないと思う □本人に任せればいい □無回答



■いけないこと □吸えなくても仕方ない □かまわないと思う □本人に任せればいい □無回答

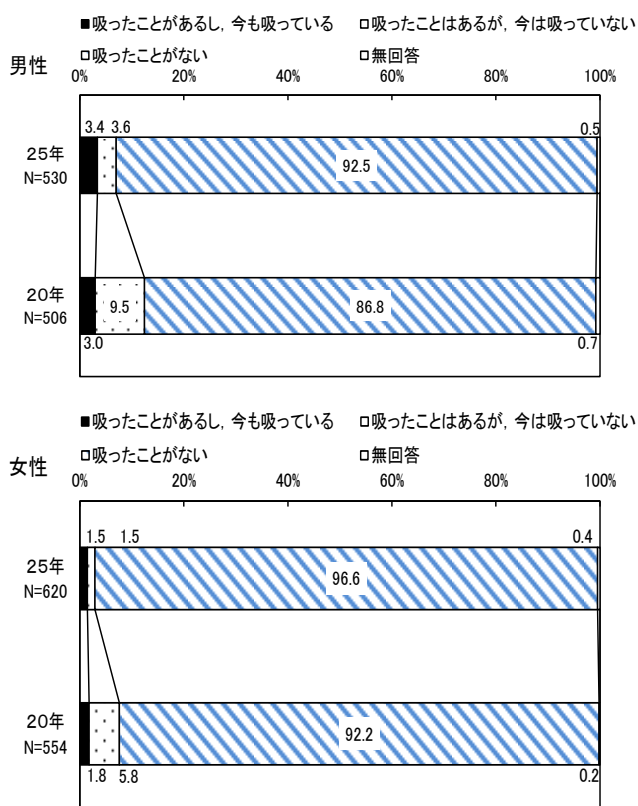


年齢別では、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」の割合は、年齢があがるにつれて減少し、「本人の考えに任せればいいと思う」の割合は、年齢があがるにつれて増加する傾向にあります。



(2) 喫煙経験 (問30)

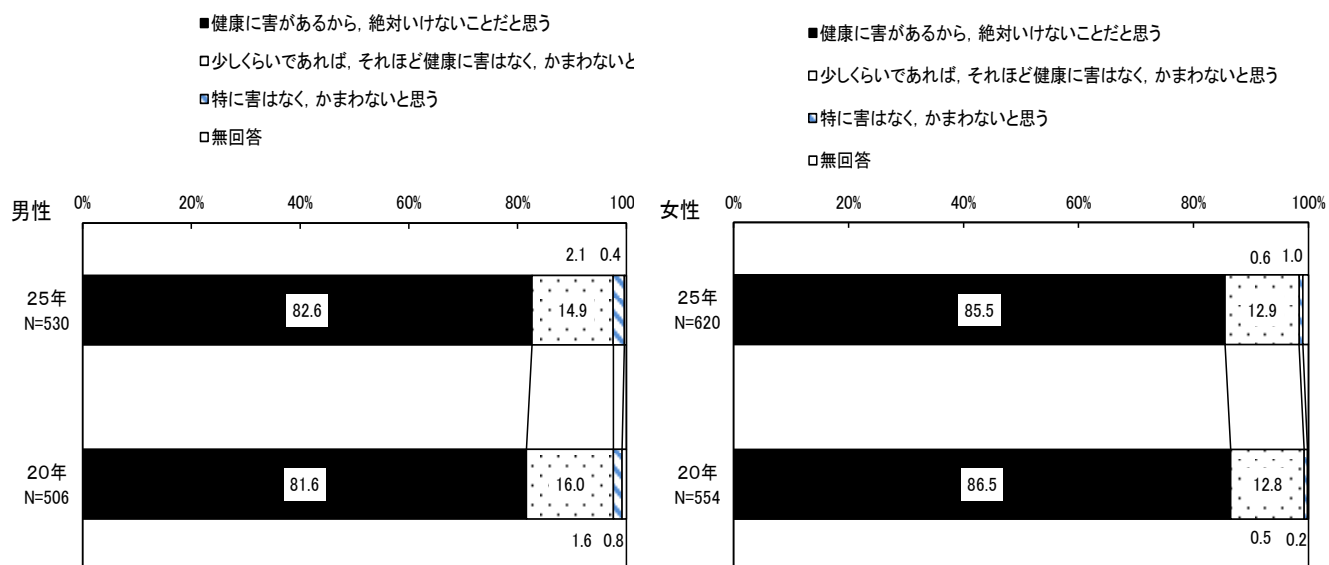
全体では、喫煙経験(「吸ったことがあるし、今も吸っている」、「吸ったことはあるが、今は吸っていない」の回答者)がある男性は7.0%で、女性は3.0%であり、平成20年調査の男性12.5%、女性7.6%と比較し減少しています。



(3) たばこが健康に及ぼす影響 (問31)

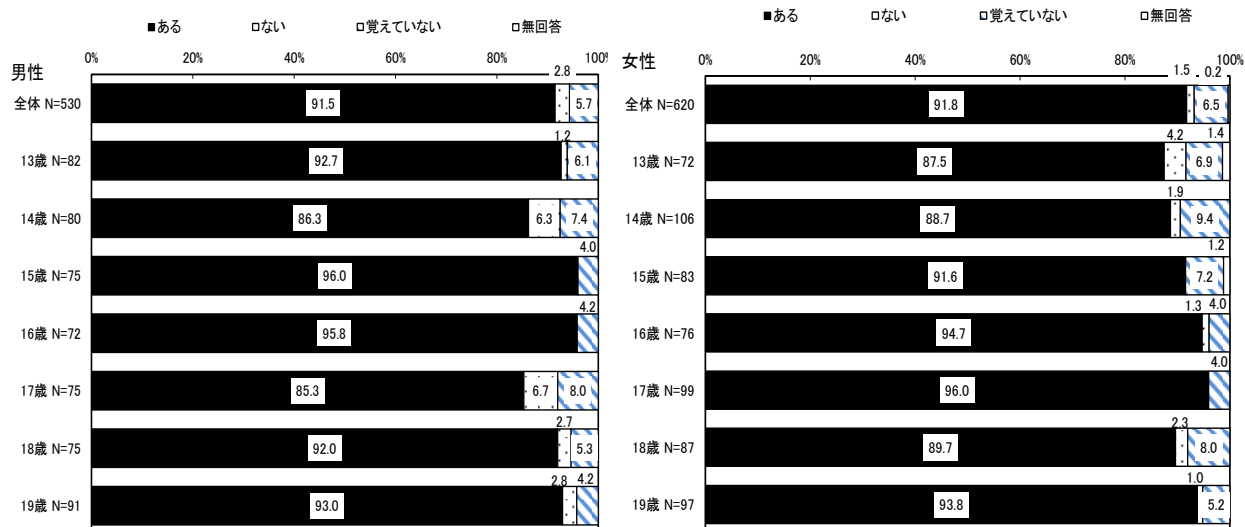
「健康に害があるから、絶対いけないことだと思う」の割合は、男性の82.6%、女性85.5%となっています。

一方で、「特に害はなく、構わないと思う」の割合は、男性の2.1%、女性の0.6%で、平成20年調査の男性1.6%、女性0.5%と比較して、微増しています。



(4) たばこが健康に及ぼす影響についての学習経験 (問32)

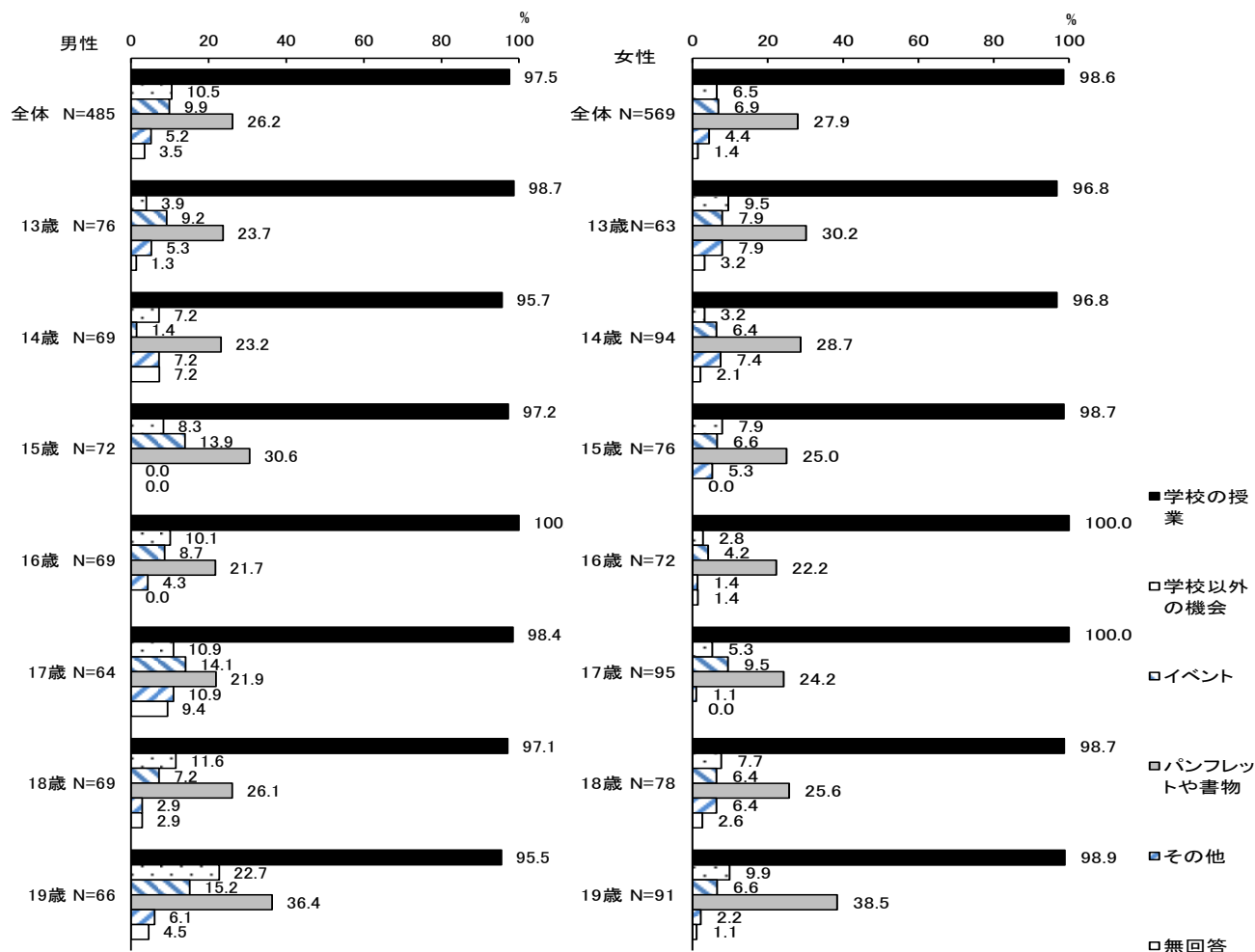
全体では、学んだことが「ある」の割合は、男性の91.5%、女性の91.8%となっています。



(5) たばこが健康に及ぼす影響についての学習機会 (補問32-2)

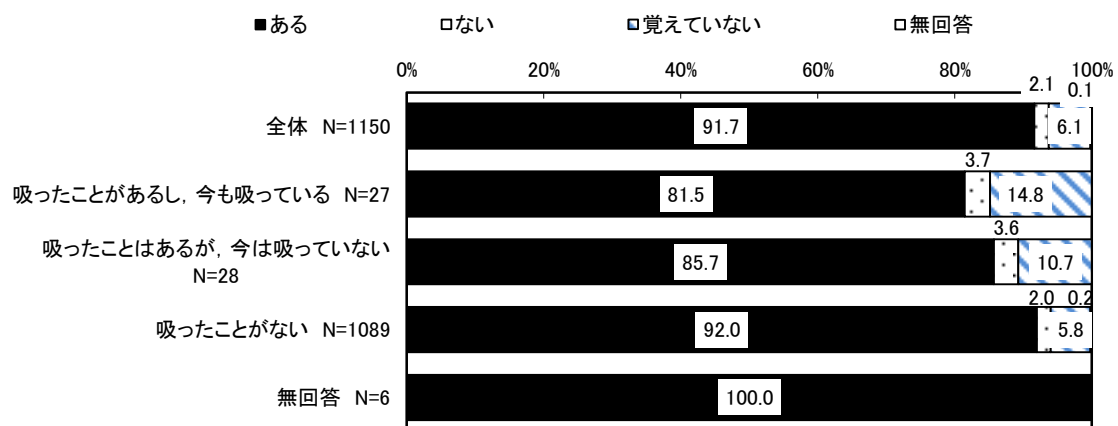
男女共に、「学校の授業」の割合が最も高くなっています。

男女別では、女性と比較して男性の方が、「学校以外の機会」や「イベント」の割合が高くなっています。



＜喫煙経験（問30）とたばこが健康に及ぼす影響についての学習経験（問32）の関係＞

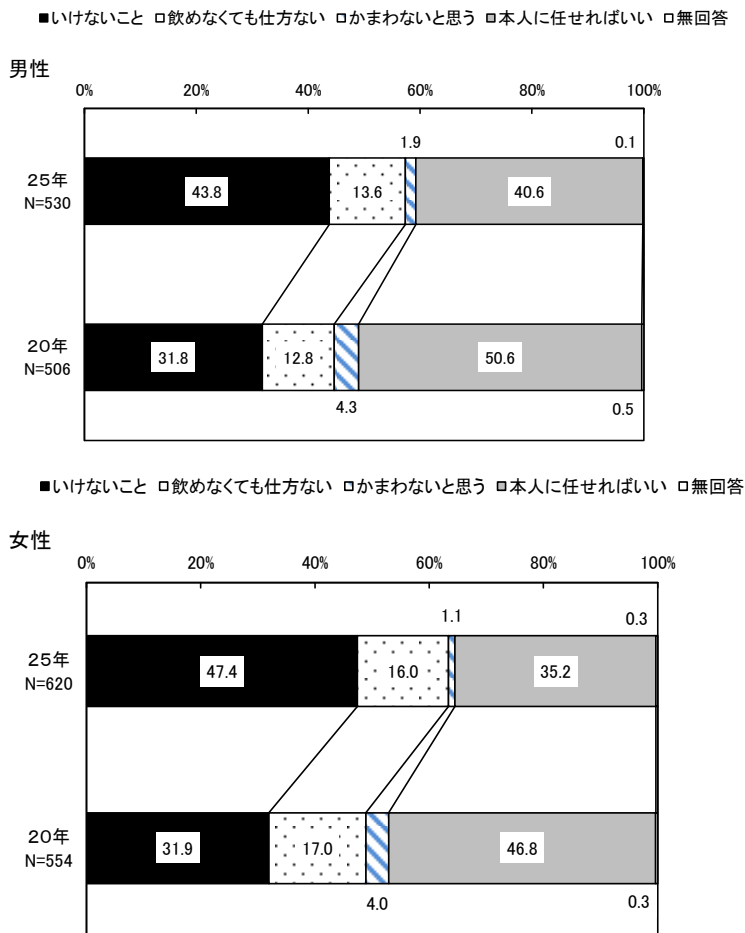
喫煙経験がない者は、喫煙経験がある者と比較すると、学習経験が「ある」の割合が高くなっています。



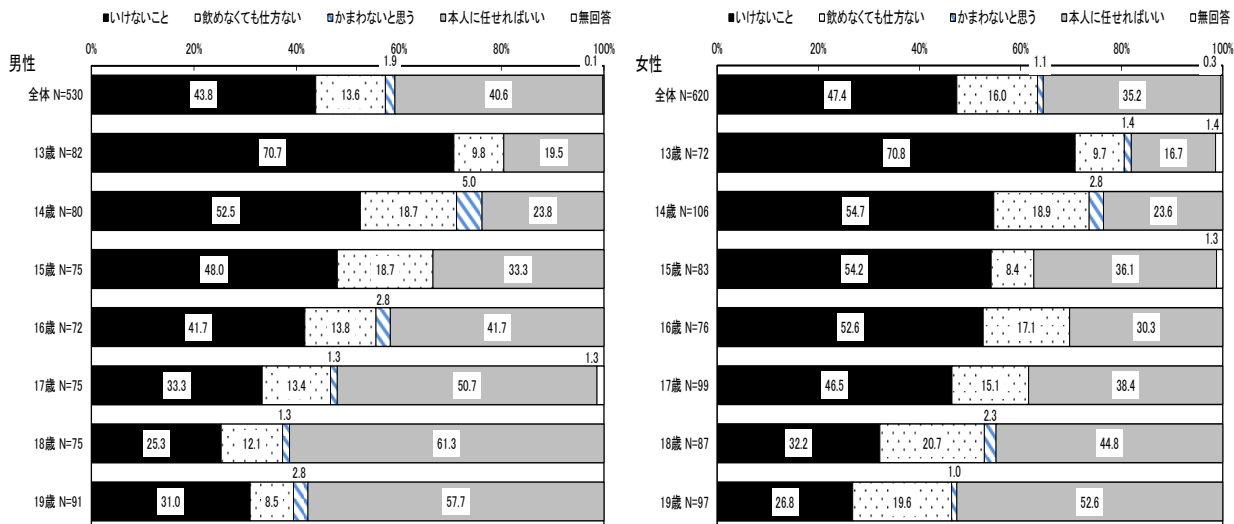
8 飲酒について

(1) 未成年がお酒を飲むことについて(問34)

「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」の割合は、男性の43.8%、女性の47.4%であり、平成20年調査の男性31.8%、女性31.9%と比較して、大幅に増加しています。

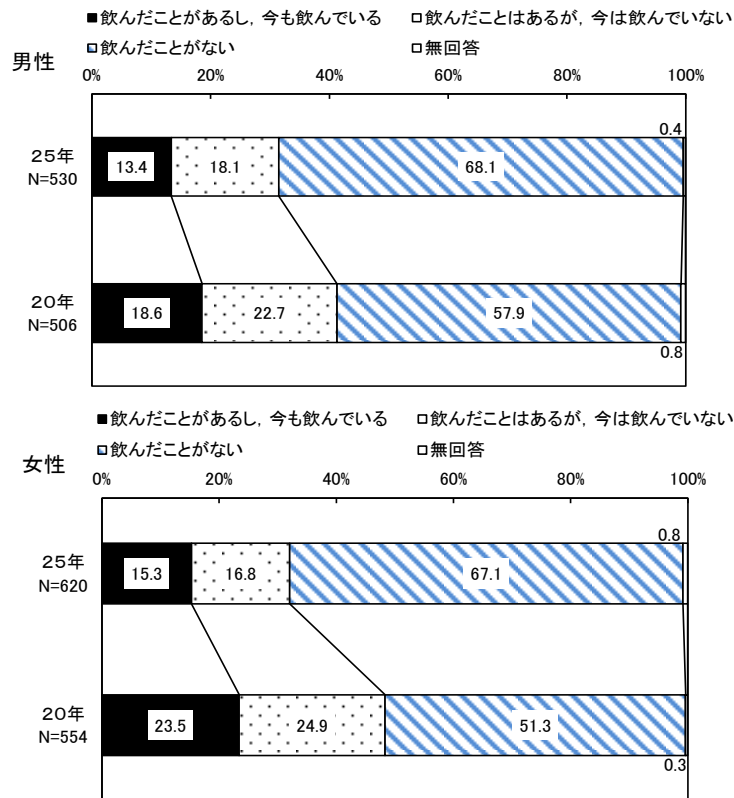


年齢別では、男女共に、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」の割合は、年齢が上がるにつれて減少し、「本人の考えに任せればいい」の割合は、年齢が上がるにつれて増加する傾向にあります。



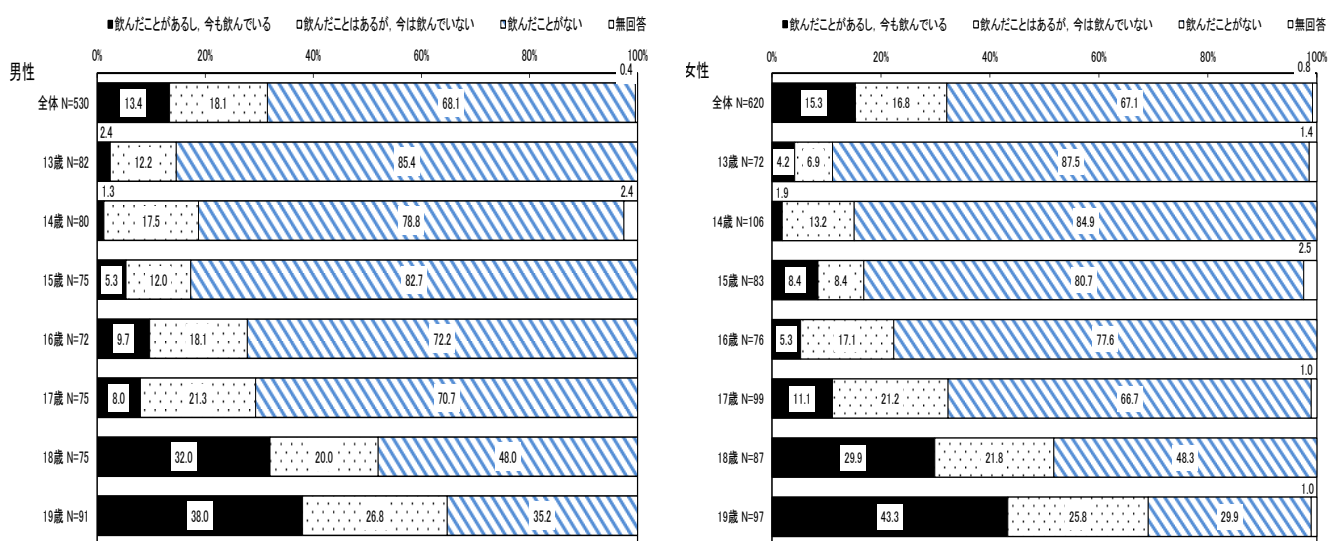
(2) 飲酒経験(問35)

飲酒経験がある者(「飲んだことがあるし、今も飲んでいる」、「飲んだことはあるが、今は飲んでいない」の回答者)は、男性の31.5%、女性の32.1%であり、平成20年調査の男性41.3%、女性48.4%と比較して減少しています。



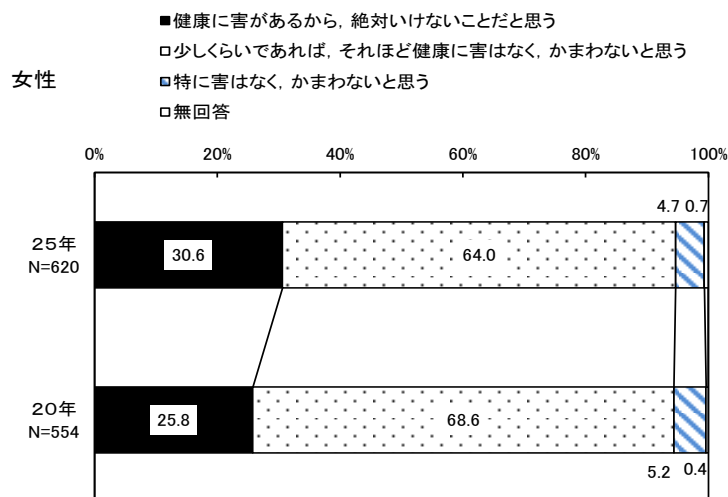
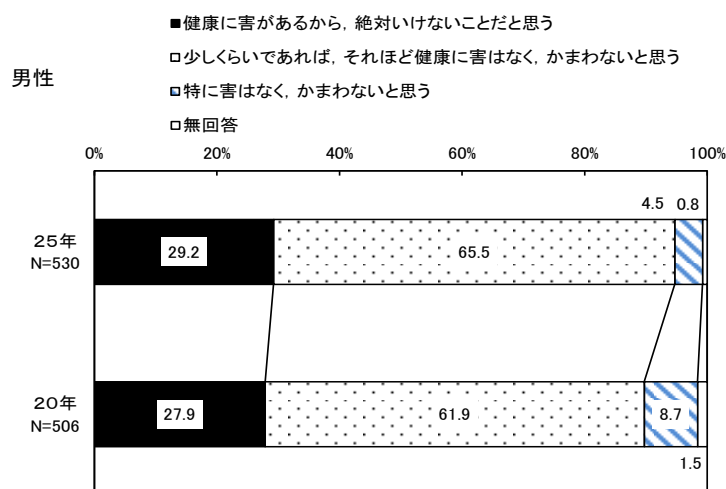
年齢別では、年齢があがるにつれて、飲酒経験の割合が増加しており、特に18歳で男女共に大きく増加しています。

19歳では、飲酒経験がある者が、男性の64.8%、女性の69.1%であり、平成20年調査の男性82.4%、女性89.6%と比較して減少していますが、男性の38.0%、女性の43.3%が「飲んだことがあるし、今も飲んでいる」と回答しています。

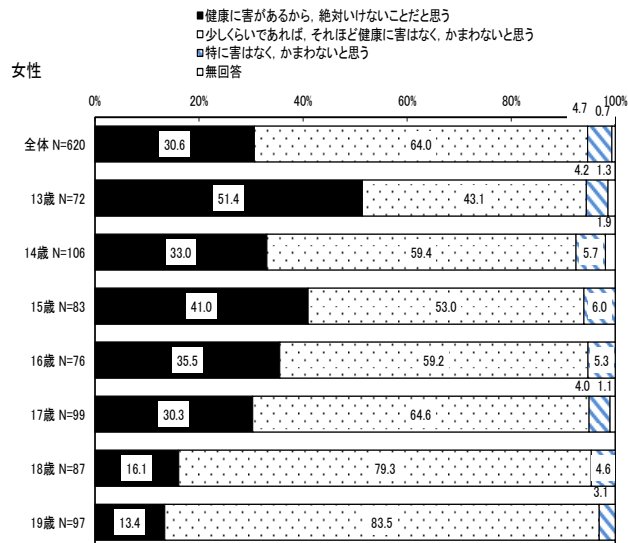
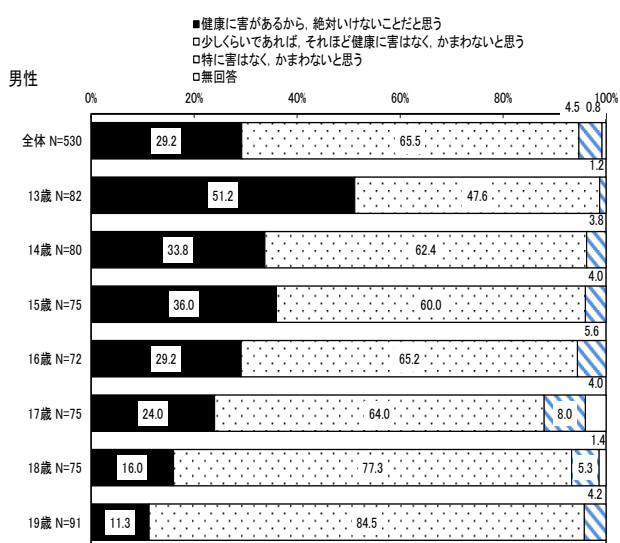


(3) 飲酒が健康に及ぼす影響(問36)

「健康に害があるから、絶対いけないことだと思う」の割合は、男性の29.2%、女性の30.6%であり、平成20年調査の男性27.9%、女性25.8%と比較して増加しています。



年齢別では、年齢があがるにつれて、「少しくらいであれば、それほど健康に害はなく、かまわないと思う」、「特に害はなく、かまわないと思う」の割合が増加する傾向にあります。



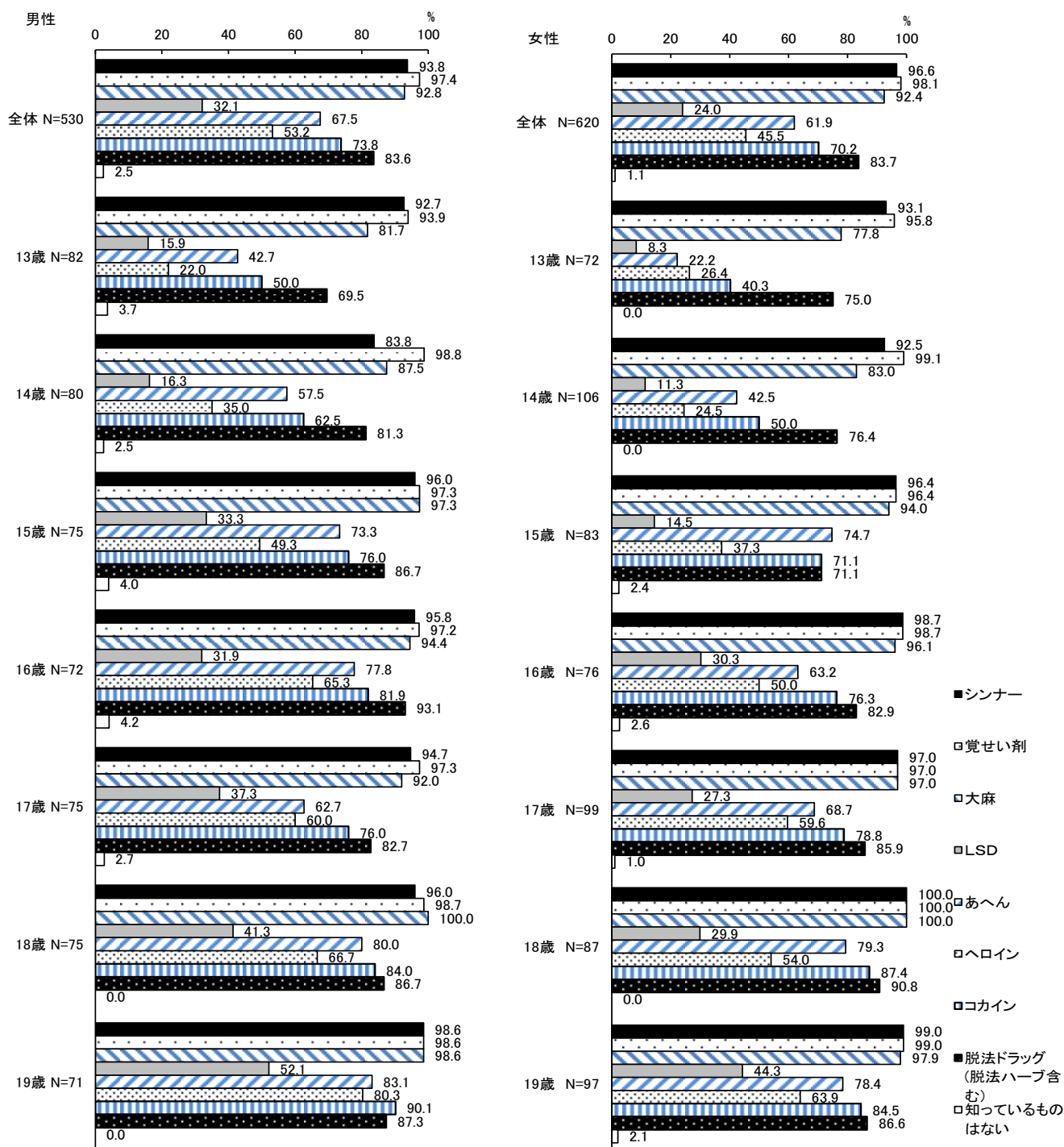
9 規制薬物について

(1) 知っている名称(問37)

「シンナー」、「覚せい剤」、「大麻」の割合は、男女共に90%以上となっています。

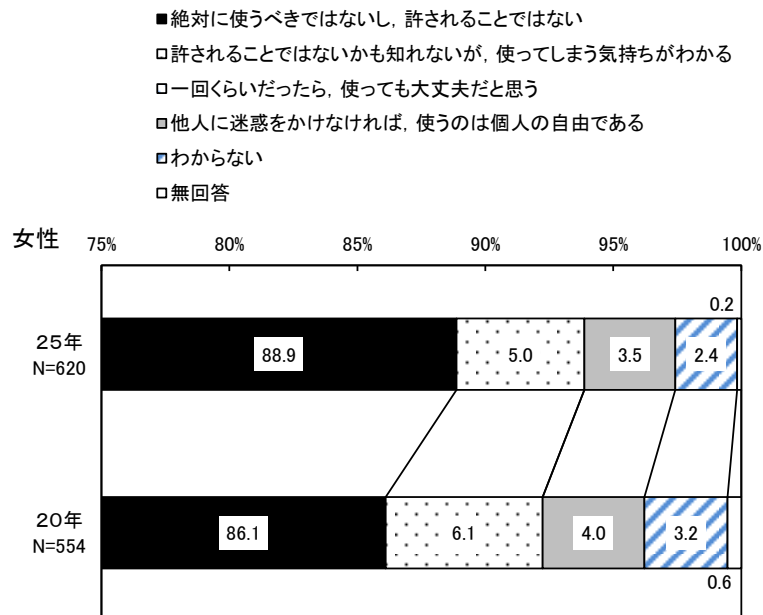
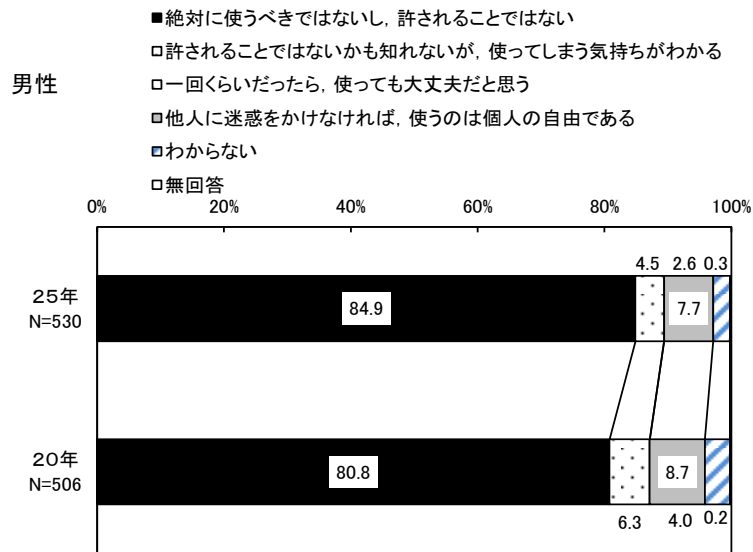
一方、「LSD」の割合は男性の32.1%、女性の24.0%であり、最も低くなっています。

年齢別では、「あへん」、「ヘロイン」、「コカイン」の割合が、低年齢で低い傾向にあります



(2) 規制薬物を使用することについて(問39)

「絶対使うべきではないし、許されることではない」の割合は男性の84.9%、女性の88.9%と最も高く、平成20年調査の男性80.8%、女性86.1%と比較して増加しています。

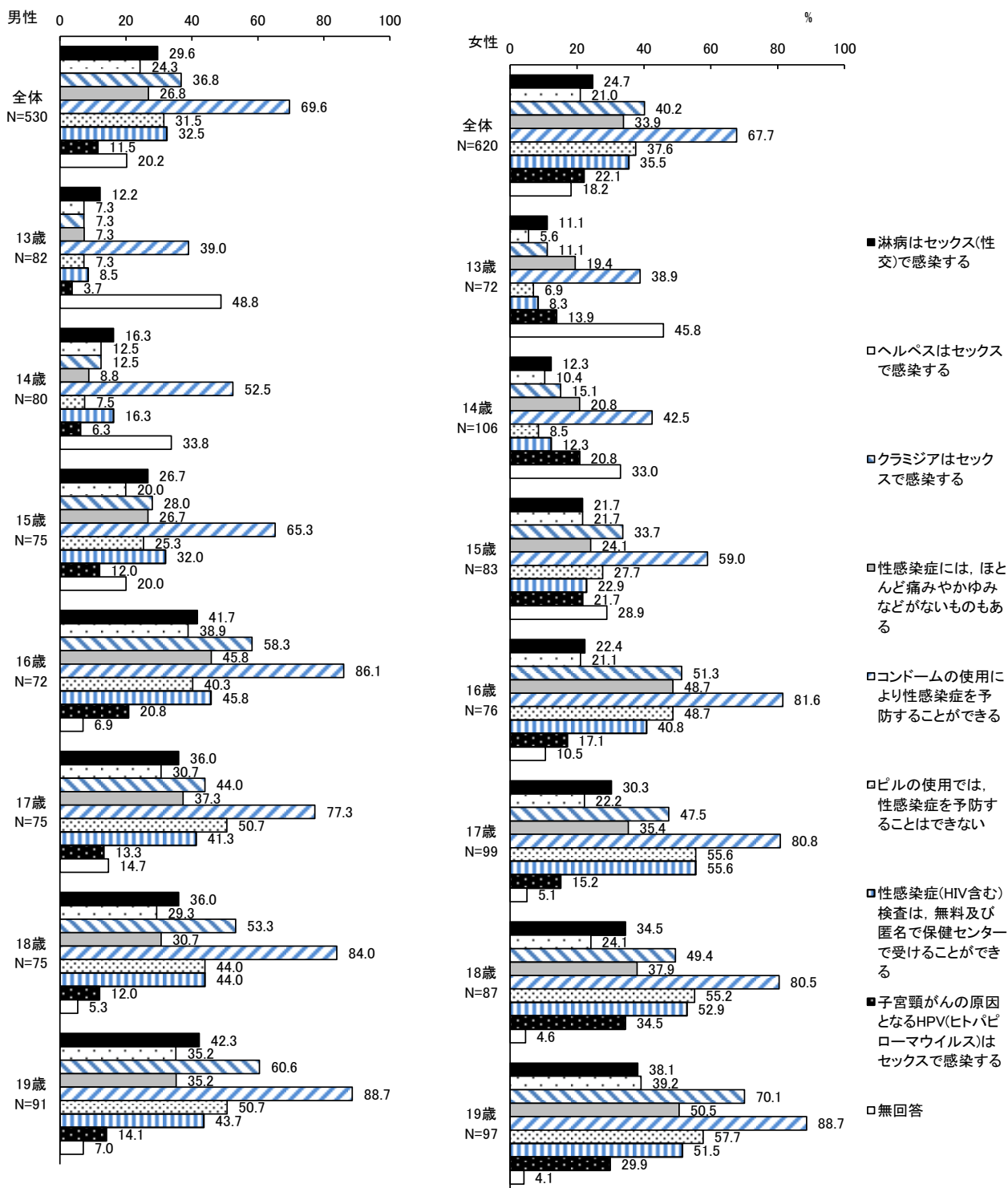


10 性に関わることについて

(1) 性感染症のうち知っているもの(問40)

性感染症について知っている割合が高いものは、「クラミジアはセックスで感染する」、「淋病はセックスで感染する」、「ヘルペスはセックスで感染する」となっています。

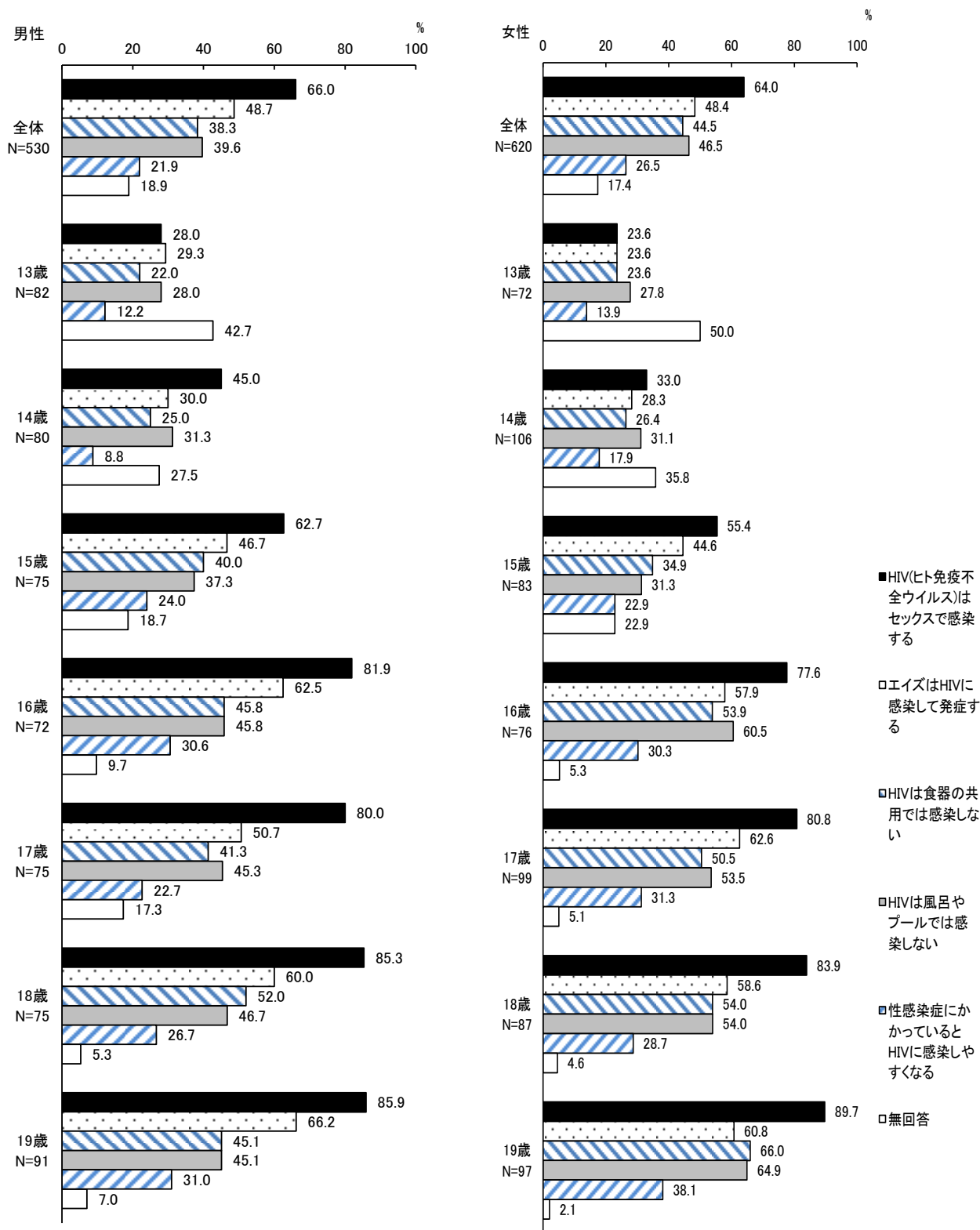
「コンドームの使用により性感染症を予防することができる」の割合は、男性の69.6%、女性の67.7%であり、平成20年調査の男性61.3%、女性64.8%と比較して増加しています。



(2) エイズやHIVについて知っているもの(問41)

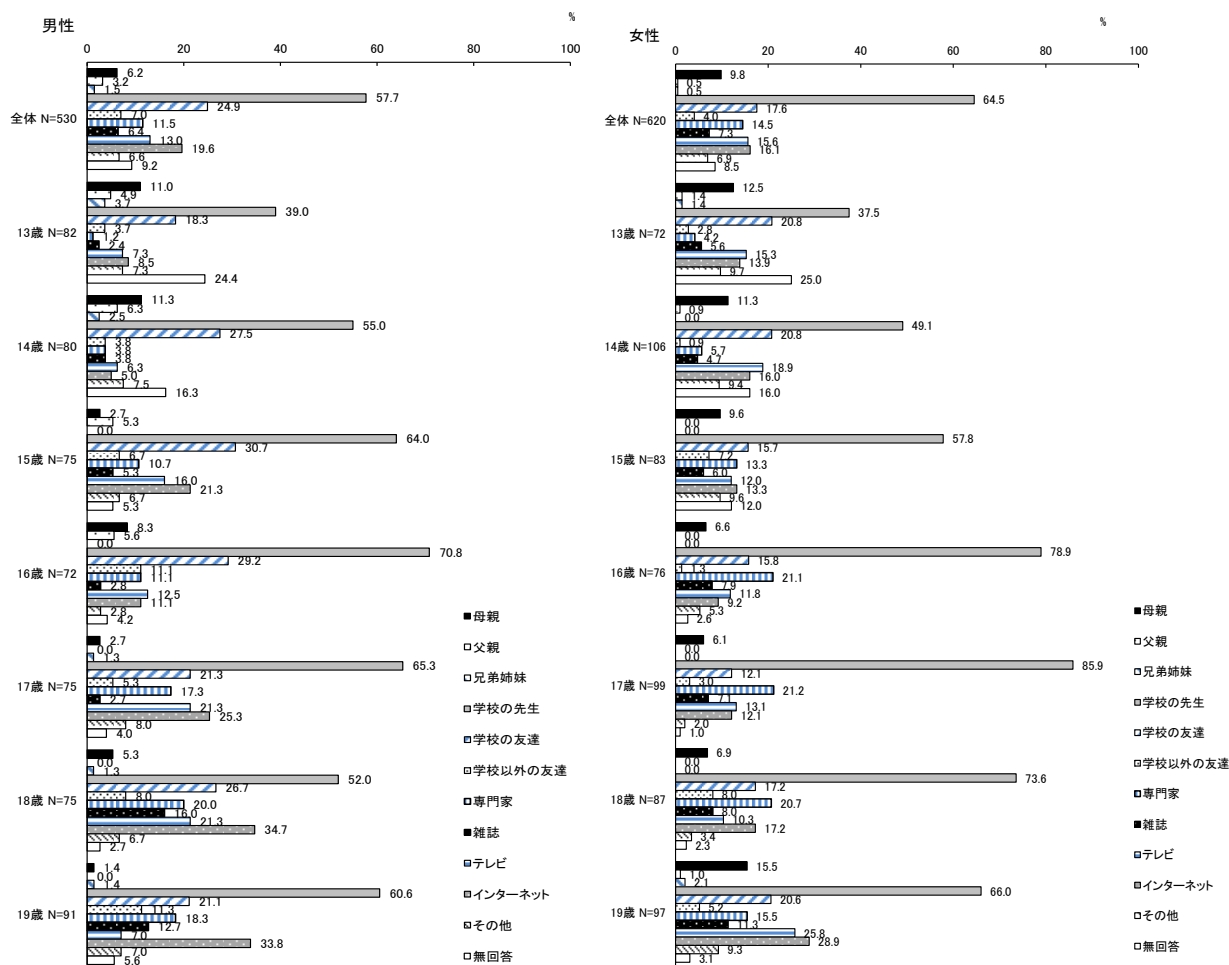
全体では、「HIV(ヒト免疫不全ウイルス)はセックスで感染する」の割合は、男性の66.0%、女性の64.0%となっており、最も高くなっています。

一方で、「性感染症にかかっているとHIVに感染しやすくなる」の割合は、男性の21.9%、女性の26.5%となっており、最も低くなっています。



(3) 性感染症や避妊方法について情報収集の方法(複数回答:3つまで)(問4 2)

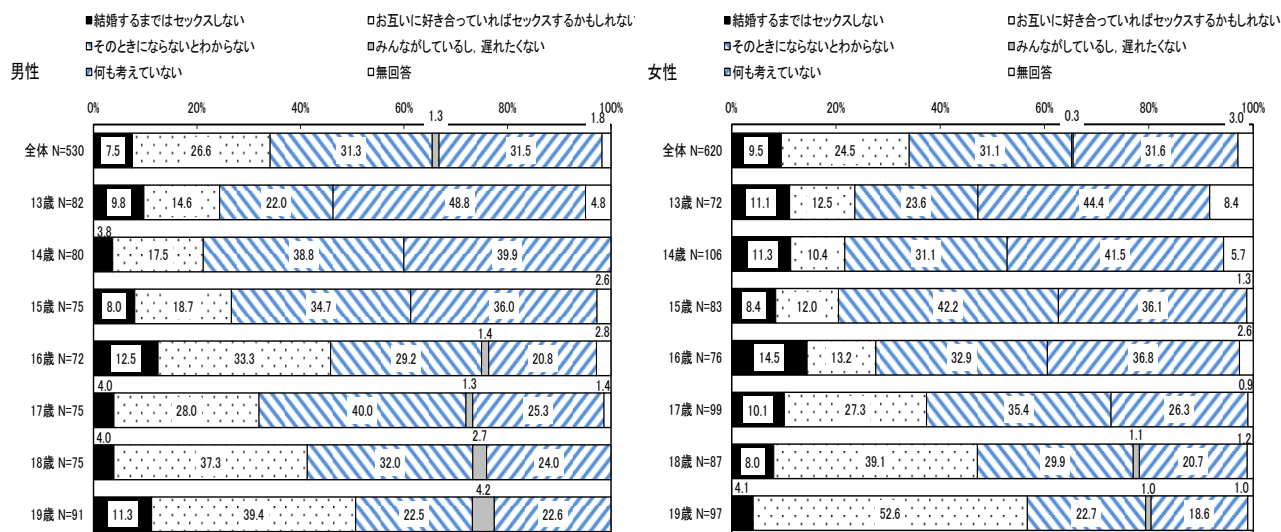
「学校の先生」の割合は男性の57.7%、女性の64.5%と最も高く、次いで「友人」、「インターネット」となっています。



(4) 自分自身がセックスすること(問4 3)

全体では、「何も考えていない」の割合が最も高く、男性の31.5%、女性の31.6%となっており、次いで、「そのときにならないとわからない」となっています。

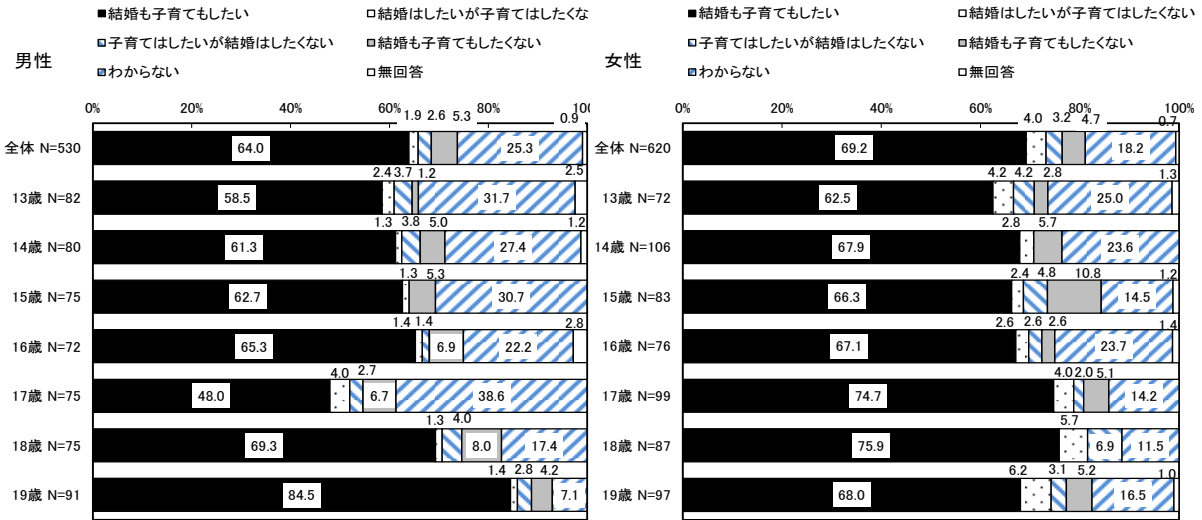
年齢別では、「お互いに好き合っていればセックスするかもしれない」は年齢が上がるにつれて増加し、男女共に18歳以降、「そのときにならないとわからない」より割合が高くなっています。



11 将来について

(1) 将来の自分の結婚や子育て(問45)

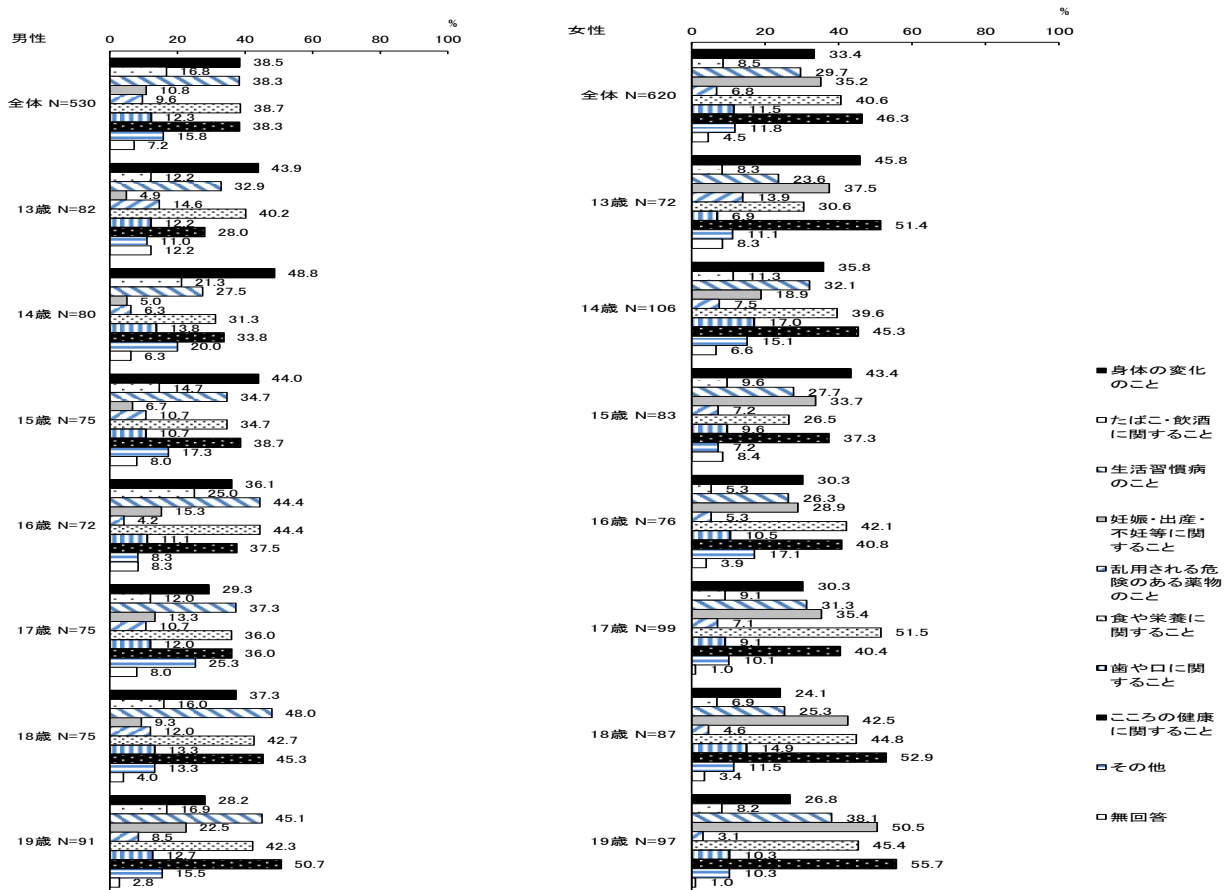
「結婚も子育てもしたい」の割合は、男性の64.0%、女性の69.2%となっています。
一方で、男性の5.3%、女性の4.7%が「結婚も子育てもしたくない」となっています。



(2) 健康について知りたいこと(複数回答:3つまで)(問46)

男女共に、「身体の変化のこと」、「生活習慣病のこと」、「食や栄養に関すること」、「こころの健康に関すること」の割合が高くなっています。

男女別では、女性は男性と比較して、「妊娠・出産・不妊等に関すること」の割合が高く、19歳の女性では、50.5%が知りたいと回答しています。



京都市
思春期に関する意識調査
【結果報告書】
(概要版)

発行年月日 平成26年10月

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話：075-222-3420 FAX：075-222-3416

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-1-0-0.html>

京都市印刷物番号 第263104号



この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。

コミュニティ回収や古紙回収等にお出してください。

